

平成25年6月15日発行 ライセンスメイト 第1巻234号通巻560号(年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行) 昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE

ライセンスメイト

ありがとう台湾

世界一の親日国に感謝

日台の生命の絆



台南市政府（市役所）への表敬訪問

台南市は、台湾第2の都市として栄え、人口187万人の中華民国の直轄市である。多くの歴史的旧跡が残り、現代的な都市景観と並存していることから「台湾の京都」と呼ばれる。今回は東日本大震災の復興支援への謝意を述べるため表敬訪問し、賴清徳市長のご接待を受けた。

発行所 株式会社 日本教育開発

LICENSE MATE

特集 台湾慰靈訪問団

- 2 「台湾慰靈訪問団特集」に寄せて
- 3 団長あいさつ
- 5 台湾訪問の目的
- 9 報告集(ライセンスメイト)について
- 10 日台の家族(兄弟)交流のあゆみ
- 13 祭文／台湾訪問の旅 訪台者一覧

- 15 一目でわかる訪問先・交歓先
- 17 訪問先・交歓先一覧(第1次～第14次)
- 20 台湾訪問の記録(第1次～第13次)
- 21 台湾訪問の旅 帰朝報告
- 24 台湾訪問の旅 紀行文集(抄)
- 37 第15次台湾慰靈訪問の旅・参加者募集のお知らせ
- 38 知られざる「神蹟の遺跡」
- 39 中華民国外交部・台日文化経済協會・台南市政府表敬訪問
- 41 結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会
- 43 台湾特別講演会

台湾支部事務局長 婚約式 結婚披露宴…百年好合 永浴愛河





「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長 ^{えびす}戎 ^{よし}義 ^{とし}俊



日華(台)親善友好慰霊訪問団小菅団長をはじめ団員の皆様におかれましては、台湾における戦没者慰霊活動や友好交流活動のために、この15年来、毎年欠かすことなく我が中華民國台湾を訪問され、日華(台)親善友好慰霊訪問団を積み重ねてこられたことに敬意を表します。また台湾に出向いての交流のみならず、平素より台日親善交流にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご存知のように中華民國台湾と日本とは、地理的にも歴史的にも深い繋がりがあり、大変強い絆で結ばれております。台湾は世界一の親日国家であります。台湾と日本の人々はお互いに親近感と信頼感を持ち合わせ、双方の往来も大変緊密で、昨年は合わせて300万人近くの人的交流がありました。台日航空自由化協定が締結されてからはお互いを結ぶ新しい航空路線が次々と開設され、現在毎週350便が台日間で運航されております。

また、文化交流の面でも新たな一頁が開かれました。4月に行われた日本の宝塚歌劇団の台湾初公演に続き、来年2014年には故宮博物院の日本展が東京国立博物館と九州国立博物館で開催されることになりました。どちらも長い間待ち望まれてきた交流でありまして、台日関係はこの40年で最良といえるほどにまで発展しております。これも偏に日華(台)親善友好慰霊訪問団の皆様の長年にわたる台日民間交流へのご尽力の賜物と感謝しております。これからも訪問交流活動を通じてお互いの理解と信頼をより一層深めていただきますよう心から願っております。

日華(台)親善友好慰霊訪問団の今後ますますのご発展と小菅団長はじめ団員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。





「公的支援のない公的事業」に 民間の熱きご支援を

日華(台)親善友好慰霊訪問団
団長 小菅 亥三郎

平成11年3月に社員旅行で訪台したのが契機で、宝覺寺での例大祭を知り、その年11月に娘と2人で参列させていただいたのが全てのスタートです。

日本兵軍人軍属として大東亜戦争を戦い英雄的に散華された原台湾人を供養する旅とはいえ、よく14年間も続けてこれたと思っています。お陰をもちまして今回、第14次も多大の成果を挙げて帰国することができました。全て列記すると大変な数になりますので、5点だけ代表例をご紹介します。

なんといっても先ず第1は11月25日の慰霊祭が不成功したということではないでしょうか。わが国からの団体としては唯一となりましたが、第13次からの儀仗が援軍として再び登場して下さいました。

第2はこの慰霊祭に先立つ日本人墓地での慰霊式において、一昨年・第13次を上回る100名以上の日本人観光客がご焼香に合流して下さいました。

第3は辦事處の曾處長のお取り計らいもあり、一昨年・第13次の台中市政府に続き台南市政府を表敬訪問できたことです。

第4は林森公園の明石鳥居の復

元に尽力された台北の市議會議員、陳玉梅さんが私たちのために雨の中、待っていて下さり丁寧な説明をして戴いたことです。

第5は、11月26日の訪問先である外交部において、蘇副秘書長のご配慮により、歌手の森敬恵さんによる「海ゆかば」に合わせ全員で原台湾人元日本兵戦没者に黙祷を捧げることができたことです。

以上5点ほど紹介いたしました。これはほんの一例であります。

団員の皆様は各人各様、様々な思い出と感動を共有しておられると思いますが、この5点については大概ご賛同いただけるのではないかと思います。

それでは何故、この事業がかくも長期に亘って続けてくることが出来たのでしょうか。せつかくの機会ですので5つの視点から展開させていただきます。

一つ目は動機の崇高さではないかと思っています。お国のためにたったひとつしかない命を盾に戦い散っていった原台湾人元日本兵の皆様を供養し、その御霊を慰めるための慰霊の旅であるということです。それ故、何のお金もうけにもなりませんし、ご商売のキッカケさえ生まれません。全て

「手出し」です。公的な支援ありません。100%民間の意気と活力と使命感をもって遂行されている「公的な事業」といって差し支えないと思います。それが故に外交部も迎えて下さるのではないかと思いますし、同様に台中市政府、台南市政府も表敬訪問を受け入れて下さり、まごころを込めた対応をして下さるのだと思います。

先日の夜、西中洲の食事処で関係者の方と食事をする機会がありました。隣の席で男女5人組の方が延々と声高に話をしていました。台湾旅行の話、韓国旅行の話で、出てくる話題は①どちらが安いか②食事はどちらが旨いか③ホテルの泊まり心地はどちらがよいか。1時間半ほどでしたが英霊の「エ」の字も「慰霊」の「イ」の字も、現地の皆様との交流の「コ」の字も全く出てきませんでした。出てきたのは、遊ぶところ、買い物と食べ物の話ばかりでした。こういう話を何年もし続けて人生を終えていくのかと思うと隣のお客様があわれに思えて仕方ありませんでした。

二つ目は「無理をしなかった」ということです。この事業は「国家的事業」です。継承していかなくてはなりません。それ故、継承し



て下さる人が参加しやすいように、また育てやすく、育ちやすいように11月25日の宝覺寺での慰霊祭だけに焦点を絞ってきたことです。どこからでも支援が期待できないため、また企画自体に「営利性」の介入する余地が全くないため「無理」は即「破綻」に直結します。無理をしないから14年も続けてこれたと思っています。

三つ目は特権階級を作らなかったからだと思います。地位の高い人、有名な人、お金持ちの人、こういう人を求める旅ではありません。全く逆です。無名の戦死者を訪ね歩き、供養していく巡礼の旅です。また、社員旅行から開始されたということは、旅行積立で参加するということです。学院職員が皆様のサポート役として私を含め5人参加していますが、全員が給料引きで参加しています。この事業の世話人であるがために給与から旅費は控除されるは、逆に営業成績は落ちるは、そして減給されるはで、本人たちにとっては大変ですが、私のような経営者のもとに就職したということで、本人たちには諦めてもらっています。

四つ目は日本統治時代の古き良き日本を守り伝えてくださってい

る老若男女も含めての台湾人との交流を大切にしたいから続いてきたのだと思います。とかく碑を作ったり、記念碑を建立したりすることで事足りると思う世相の中で、これは大変な仕事です。心温まる交流をベースにしたハードであれば結構なことです。第3次訪問の時は記念碑やそこに刻まれた文字にはことの外、興味を抱きながらもそれを守り伝えて下さっている現地の人々には全く関心を示さなかった人が見受けられました。そういう人は続いていないのです。

私の母は存命中、こういうことを言いました。「亥三郎、母ちゃんが死んでから墓石に布団とかを掛けてくれなくていいから、生きている時に親孝行をしてくれよ」と。石よりも人を大切にしてきたからこそ続いてきたと思っています。

五つ目は、「記録は命」としてしっかりとドキュメントを綴ってきたからこそ続けてこれたと思います。報告集を編集し、記念アルバムを作り、記録映像をしたためることをしてきたからこそ続けてこれたと思います。記録に残された事を私たちは別の名称で「歴史」と呼びます。歴史化されない事業は

続け甲斐も感じなければ、継承する人も現われにくいと思います。

以上縷々申し上げましたが、大変経費のかかる事業を原台湾人戦没者供養のために、団員の皆様のご不満も言わず、ご負担して下さいながらこそ続けてこれたと思います。この事業にかかわる全ての経費を担っていこうと決意された皆様の団体だからこそ、続けてこれたのだと思います。

西中洲の食事処のお客様のお話ではありませんが、食事とホテルと値段の安さだけにしか関心のない方だけでしたら、この事業は続けてこれなかったと思います。本当に皆様ありがとうございます。公的行事を公的支援なしに遂行していくとはこういうことではないでしょうか。

私たちは、今秋の記念すべき第15次訪問に向けた第一歩を踏み出しました。

宝覺寺のご英霊が待っておられる台湾へ日本国と日本人を代表してご参加して下さいの方がひとりでも多くなることを祈念すると共に、皆々様のご多幸、ご健勝をお祈り致しまして私の挨拶に代えさせていただきます。



「大東亜戦争で 散華された台湾同胞の 英霊三万三千余柱の顕彰」

- 11月22日(木) 高雄／保安堂(写真①②)
 11月23日(金) 屏東／東龍宮(写真③④)
 台南／飛虎將軍廟(写真⑤⑥)
 11月24日(土) 布袋／貞愛親王殿下登陸記念碑(写真⑦⑧)
 (ご宿泊地「八角樓」を含む)
 東石／富安宮(写真⑨⑩)
 11月25日(日) 台中／宝覺寺(写真⑪⑫⑬)
 イ. 日本人墓地(日本人遺骨安置所)
 ロ. 英魂観音亭と「霊安故郷」の慰霊碑
 新竹／濟化宮(写真⑭)
 11月26日(月) 士林／芝山公園／六士先生墓所(写真⑮⑯)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



「台湾の皆様方との 家族交流・兄弟交流」

- 11月22日(木) 高雄／黄明山・葉美麗ご夫妻による招待夕食会／
海慶澎湖海産(写真①②)
- 11月23日(金) 新化／新化國民小學御真影奉安殿(写真③)
台南／台南武德殿(写真④)
台南／台南市政府(賴清德市長)表敬訪問(写真⑤⑥)
- 11月24日(土) 鹽水／鹽水國民小學(盧彥賓校長)訪問(写真⑦⑧)
台中／台湾台日海交會(簡朝陽會長)主催の懇親会／
香蕉新樂園餐廳(写真⑨⑩)
- 11月25日(日) 台中／台湾中日海交協会(胡順來会長)主催の懇親会／
大北京餐廳(写真⑪⑫)
台北／台日文化經濟協會(黃天麟會長)主催の懇親会／
海霸王(写真⑬)
- 11月26日(月) 台北／中華民國外交部(蘇啓誠副秘書長)表敬訪問(写真⑭)
台北／林森公園(陳玉梅先生)(写真⑮)
台北／訪問団主催の懇親会(蔡焜燦先生・黃文雄先生)／
華漾大飯店(写真⑯)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯

報告集(ライセンスメイト)について

私たちは、ひとりでも多くの国民の皆様「日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」を知っていただこうと、団員の皆様の感想文を主体にした報告集として、この季刊誌(第3種郵便物認可)を活用し今日に至っています。それは発送費が助かるからです。(発行所／株式会社日本教育開発)

- ◎この本は訪台時にご接待された台湾の皆様にも御礼として贈呈しますので、恥ずかしくない装丁でないといけません。中華民国政府(外交部)にも献本できる資質が求められる所以です。
- ◎国内に目を転じれば、団員の皆様のご縁のある方に配付される時、誇りに思えるものでなければなりません。直近の出来事のみならず、この事業の沿革が一目で理解していただけるものでなくてはなりません。
- ◎読んでみたい雰囲気を漂わすだけでなく内容もしっかりしないとけません。デザイナーの人にも頑張ってもらい、様々な年代、職業、立場、地域の皆様に、すなわち時代に受け入れてもらえるよう工夫と研究を重ねてきたのは、そういう理由からでした。
- ◎英霊の皆様から本当に喜んでもらえるような誌面作り、大東亜戦争に志願し散華された英雄の皆様が、世界史的大事業に参画できた感動を時空を超えて現代の私たち日本人に語りかけることができる媒体、戦死者にあたたくぬくもりのある刊行物、以上のような報告集作りを目指してきた15年でした。
- ◎結成以来、台湾でご縁の出来た方と訪問団に参加実績のある方を合わせますと優に1,000名になりますので、発行部数もそれだけ必要です。
- ◎刷っただけでは読んでいただけません。よって宅配や郵送、相手先が台湾なら航空便も必要です。
- ◎総じてこれら一切の経費を訪問団員の皆様が均等に負担していただいたからこそ、第14次に至るまでこの事業を継続してこれたのだと思います。(原稿料、執筆料は全てボランティアでお願いしてきました。)
- ◎「公的支援のない公的事業」は団員の皆様をはじめとする民間の熱きご支援なしには一日も立ちゆきません。

この雑誌を作ることは英霊への供養の一環でありますし、紙面をご覧いただくことは、現代に生きる私たちが戦没者の皆様と時間と空間と志(こころざし)を共有できる数少ない機会のひとつだと思います。

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

平成11年 3月 6日 第1次訪問旅行(3.6~3.9、23名)
※「結団式・解団式」含む...1
5月 15日 ライセンスメイトにて連載開始...2
11月 25日 慰霊祭参加(台中・宝覺寺、11.24~11.26、2名)...3
平成12年 11月 23日 第2次訪問旅行(11.23~11.26、17名)
※「結団式・解団式」含む...4
平成13年 5月 28日 読売新聞に一面広告掲載...5
6月 5日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...6
10月 13日 第3次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店60名)...7
11月 8日 二の丸会全国農業土木技術連盟九州業界連盟研修会
「世界一の親日国・台湾の話」講話:小菅玄三郎 随行:
古川(ホテル南風樓)...8
11月 23日 第3次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...9
12月 22日 第3次訪問団結団式・報告会(平和樓本店50名)...10
平成14年 4月 1日 訪問団ホームページ開設...11
4月 26日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...12
6月 8日 許國雄先生告別式参列(高雄・徳生長老教会、6.7~
6.9、1名)...13
9月 10日 産経新聞に見聞広告掲載...14
10月 21日 全国の学校(8,443校)にパンフレットを郵送し、台湾へ
の修学旅行先選定を呼びかける
※全国の高等学校5,054校、県内の保育園から大学ま
で3,389校...15
11月 2日 第4次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店73名)...16
11月 6日 台湾中日海交協会(胡順来会長以下16名)歓迎晚餐会
(台湾18名)...17
11月 23日 第4次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...18
平成15年 1月 24日 第4次訪問団結団式・報告会(平和樓本店48名)...19
4月 26日 台湾在日福岡留学生会・新入生歓迎会参加(八仙閣1
名)...20
6月 6日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...21
6月 7日 第1回台湾特別講演会・懇親会(アーバン・オフィス天
神・講演会134名/懇親会36名)
山口秀範先生(国民文化研究会事務局長)「台湾に根づ
く日本精神一六士先生を中心に」...22
8月 6日 福岡市中央倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを訪ね
て」卓話:小菅玄三郎 随行:古川(KKRホテル博多)...23
11月 8日 第5次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)...24
11月 23日 第5次訪問旅行(11.23~11.26、23名)...25
平成16年 1月 24日 第5次訪問団結団式・報告会(平和樓本店35名)...26
2月 22日 第1回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、2.22~
3.28、6回)...27
4月 29日 台中市日本文化協會(鍾子桓氏以下3名)来訪...28
5月 23日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣1名)...29
6月 5日 第2回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフ
イス天神83名/懇親会 花万葉54名)
張國興先生(久留米大学法学部教授)「台湾の現状—総
統選挙を中心に」...30
6月 9日 福岡日華親善協会 定時総会参加(平和樓本店1名)...31
6月 20日 沈・呉ご夫妻来訪...32
9月 9日 台湾福祉実習団(陳徹氏以下8名)来訪...33
11月 12日 福岡日華親善協会孫中山先生並びに蒋介石先生生誕

記念祝宴参加(平和樓本店1名)...34
平成16年 11月 22日 第6次訪問団結団式・壮行会(アーバン・オフィス天神
6名)...35
11月 23日 第6次訪問旅行(11.23~11.26、8名)...36
12月 26日 第2回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、12.26~
H.17.1.2、2回)...37
平成17年 1月 22日 第6次訪問団結団式・報告会(平和樓本店30名)...38
6月 4日 第3回台湾特別講演会・懇親会(講演会 テルラホール
100名/懇親会 チャタムダイニング70名)
黄文雄先生(文明史家)「反日教育を煽る中国の大罪—
中国が反日・仇日に転じた本当の理由」...39
6月 10日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...40
10月 22日 第7次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店51名)...41
11月 5日 何・陳 ご夫妻歓迎晚餐会(平和樓本店16名)...42
11月 14日 福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕
記念祝宴参加(八仙閣15名)...43
11月 23日 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)...44
12月 11日 台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店1名)...45
平成18年 1月 8日 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1
回)...46
1月 28日 第7次訪問団結団式・報告会(テルラホール38名)
※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる...47
3月 22日 福岡ライオンズクラブ 例会「今、日本がおかしい〜現代
に生きる教育勅語・軍人勅諭」卓話:小菅玄三郎 随行:
川添(ホテル日航福岡)...48
5月 14日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)...49
5月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...50
6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフ
イス天神 156名/懇親会 テルラホール67名)
黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日—これ
からの台・中・日・米関係の徹底分析」...51
6月 7日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...52
10月 21日 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名)
第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)...53
11月 13日 福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕
記念祝宴参加(八仙閣1名)...54
11月 20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)...55
11月 23日 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)...56
平成19年 1月 7日 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1
回)...57
1月 27日 第8次訪問団結団式・報告会(平和樓本店68名)...58
3月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...59
5月 20日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣2名)...60
6月 2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガー
ラホール 218名/懇親会 てら岡53名)
黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍
事的脅威—日台はいかに対応すべきか?」...61
6月 13日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣2名)...62
10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)...63
10月 18日 REPの会例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」
卓話:小菅玄三郎 随行:林・吉村(パノナサロン)...64

平成19年	10月27日	旅程説明会(平和樓本店19名) 第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)...65
	11月23日	第9次訪問旅行(11.23~11.26、25名)...66
	12月22日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店3名)...67
平成20年	1月25日	九州建設機械器具リース業協会賀詞交歓会「海の彼方のニッポンを訪ねて」 講話:小菅玄三郎 随行:黄(八仙閣)...68
	1月26日	第9次訪問団結団式・報告会(平和樓本店51名)...69
	3月9日	第5回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.9~4.13、6回)...70
	3月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...71
	6月1日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)...72
	6月8日	第6回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会123名/懇親会63名) 黄文雄先生(文明史家)「日本人の道と精神(こころ)」 清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)「日本文化の本質を知ろう—新『教育勅語』のすめ」...73
	6月17日	福岡日華親善協会 定時総会参加(全日空ホテル1名)...74
	9月3日	台北駐福岡経済文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店7名)...75
	10月9日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...76
	10月25日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第10次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店48名) ※「東京支部・台湾支部設立」兼ねる...77
	11月22日	第10次訪問旅行(11.22~11.26、31名) (A班11.22~26 19名、B班11.23~26、12名)...78
	12月14日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...79
平成21年	1月24日	第10次訪問団結団式・報告会(平和樓本店64名)...80
	2月22日	第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、2.22~3.29、6回)...81
	3月9日	台北駐福岡経済文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店8名)...82
	3月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...83
	5月24日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店3名)...84
	6月6日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉10名)...85
	6月7日	第7回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会170名/懇親会69名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾と日米中の現在と未来—台湾と中国の最終戦争は避けられるのか?」 柳原憲一先生(西日本台湾学友会会長)「江見政治と竹東大圳—今、甦る台湾水力発電の父」...86
	8月14日	産経新聞で「NHKは台湾人に謝罪を!」意見広告掲載...87
	9月7日	李登輝元総統お出迎え(福岡空港43名)...88
	9月10日	李登輝元総統お見送り(福岡空港26名)...89
	9月30日	産経新聞で第2回目の「NHKは台湾人に謝罪を!」意見広告掲載...90
	10月31日	産経新聞で第3回目の「NHKは台湾人に謝罪を!」意見広告掲載...91
	11月1日	旅程説明会(平和樓本店20名) 第11次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)...92
	11月21日	産経新聞で「台湾の国連専門機関参加」支援広告掲載...93 第11次訪問旅行(11.22~11.26、30名)...94
	11月22日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(八仙閣3名)...95
	11月29日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...96
	12月20日	慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...96
平成22年	1月23日	第11次訪問団結団式・報告会(平和樓本店61名)...97
	1月30日	日本会議福岡中央支部 新春祝賀会「日台の交流—11

		年の活動を振り返って」 講話:小菅玄三郎 随行:黄・五郎丸(平和樓本店)...98
平成22年	2月21日	産経新聞で「慰霊を回復して人は国民になる」意見広告掲載...99
	3月7日	第7回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.7~4.11、6回)...100
	3月13日	林溪和先生告別式参列(台中・三一基督長老教会、3.13~3.14、2名)...101
	3月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...102
	3月21日	産経新聞で「明石元二郎台湾総督に対する福岡市教育委員会の態度には愛国心が感じられません」意見広告掲載...103
	5月13日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...104
	6月5日	第8回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会172名/懇親会58名) 明石元紹先生(明石元二郎令孫・画家)黄文雄先生(文明史家) 「郷土福岡が生んだ世界的英雄・偉人一明石元二郎台湾総督の生涯」...105
	6月27日	台北駐福岡経済文化辦事處 周碩穎處長送別会(団長宅12名)...106
	8月4日	産経新聞で「日台の生命の絆死守せむと吾日本の一角に起つ」意見広告掲載...107
	9月25日	日本会議福岡中央支部 西部地区懇談会「日本と台湾は運命共同体—台湾防衛は英霊との約束」 講話:小菅玄三郎 随行:原田・池田・黄(アーバン・オフィス天神)...108
	10月8日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ12名)...109
	10月14日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長歓迎会(松幸26名)...110
	10月23日	旅程説明会(平和樓本店21名) 第12次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店63名)...111
	11月21日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...112
	11月22日	第12次訪問旅行(11.22~11.26、46名)(A班11.22~26 35名、B班11.24~26 11名)...113
平成23年	1月22日	第12次訪問団結団式・報告会(平和樓本店65名)...114
	2月23日	福岡西ライオンズクラブ 例会「教育勅語・軍人勅諭」 卓話:小菅玄三郎 随行:高山(西鉄グランドホテル)...115
	3月15日	台北駐那覇経済文化辦事處 粘信士處長表敬訪問(3.15~3.16、4名)...116
	4月3日	第8回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.3~5.8、6回)...117
	4月23日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...118
	5月28日	産経新聞で「日本の為に従軍して戦死された台湾人の慰霊に参加するのは日本人の義務である」意見広告掲載...119
	6月4日	第9回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会159名/懇親会71名) 黄文雄先生(文明史家)「中国が沖縄を獲る日—中国の「千船保釣」を打ち砕こう!」...120
	6月12日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店7名)...121
	6月13日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...122
	6月24日	産経新聞で「奉納した龍柱と銘板に感動」意見広告掲載...123
	7月3日	中華民国建国100年「聖火リレー」福岡到着記念

平成23年	7月 6日	撮影会参加(福岡市南公園2名)...124 あすなろ会 例会「台湾はなぜ世界一の親日国なのか〜日華(台)親善友好慰霊訪問団団長12年の体験から」卓話:小菅玄三郎 随行:池田・黄・五郎丸・高山(ハーベストビル会議室)...125
	7月 24日	産経新聞で「真実で尊い行動は必ず継続される」意見広告掲載...126
	8月 21日	産経新聞で「台湾との絆の強化は日本再生への道」意見広告掲載...127
	9月 13日	福岡県立嘉穂高等学校修学旅行事前学習「台湾修学旅行〜台湾はどういう国なのか」講話:黄楷榮 随行:池田(視聴覚教室)...128
	9月 29日	産経新聞で「魂の奥の不思議なふれあいを感じる唯一の国・台湾」意見広告掲載...129
	10月 7日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...130
	10月 17日	産経新聞で「台湾での新発見、そして再発見」意見広告掲載...131
	10月 22日	旅程説明会(平和樓本店26名) 第13次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店67名)...132
	11月 20日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...133
	11月 21日	産経新聞で「日本人は真の親日国家である台湾を見誤ることなかれ」意見広告掲載...134
	11月 21日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長主催懇親会(鴻臚6名)...135
	11月 22日	第13次訪問旅行(11.22〜11.26、45名)(A班11.22〜26 38名、B班11.24〜26 7名)...136
	11月 22日	産経新聞九州総局 野口裕之総局長を囲む会(セントラルホテル10名)...137
	12月 25日	産経新聞で「日本語世代の方はかけがえのない日本の宝です」意見広告掲載...138
平成24年	1月 6日	中華民国建国満100年祝賀式典参加(ホテルオークラ1名)...139
	1月 19日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長謝恩新年会(千羽鶴6名)...140
	1月 21日	第13次訪問団結団式・報告会(平和樓本店65名)...141
	1月 26日	産経新聞で「日本人のアイデンティティを取り戻す巡礼の旅」意見広告掲載...142
	2月 22日	産経新聞で「この度の総統選挙のご当選、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。」意見広告掲載...143
	3月 25日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...144
	4月 1日	第9回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.1〜5.6、6回)...145
	4月 29日	産経新聞で「第10回台湾特別講演会」意見広告掲載...146
	5月 13日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店

		2名)...147
平成24年	5月 16日	台湾總統就任記念茶話会参加(平和樓本店3名)...148
	6月 1日	産経新聞で『『恥ずかしい』と『感謝』の訪問』意見広告掲載...149
	6月 2日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉13名)...150
	6月 3日	第10回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会167名/懇親会79名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「日本と台湾の過去・現在・未来～私たちが目指すべき日台の関係」 /パネルディスカッション:黄文雄先生(文明史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・ 柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「東日本大震災から見た日台の生命の絆～台湾国民は 何故世界一のご支援をして下さったのか」...151
	6月 7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...152
	6月 15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...153
	7月 15日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(1)」意見広告掲載...154
	7月 16日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(2)」意見広告掲載...155
	10月 5日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ5名) ※主催者より直接案内送付のため、今回から反省会参加者とする...156
	10月 6日	台湾支部事務局長(黄楷榮)婚約式参列(高雄・饌巴黎大飯店、10.6～10.8、2名)...157
	10月 13日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第14次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店69名)...158
	10月 26日	台湾支部事務局長(黄楷榮)結婚式参列(基隆・豪鼎飯店、10.26～10.28、2名)...159
	11月 18日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...160
	11月 22日	第14次訪問旅行(11.22～11.26、38名)(A班11.22～26 32名、B班11.24～26 6名)...161
平成25年	1月 26日	第14次訪問団結団式・報告会(平和樓本店73名)...162
	2月 23日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長送別会(千羽鶴13名)...163
	2月 24日	第10回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.24～3.31、6回)...164
	3月 6日	福岡日華親善協会 台北駐日経済文化代表處 沈斯淳代表歓迎宴参加(ホテル日航福岡1名)...165
	3月 20日	日台交流教育会 創立40周年記念懇親会参加(アルカディア市ヶ谷1名)...166
	3月 26日	第11回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神15名)...167
	4月 23日	第11回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神17名)...168

●ご協力ありがとうございます。

日華(台)親善友好慰霊訪問団

日吉 淳治

日華(台)親善友好慰霊訪問団

原田 種雄

個人協力金A

簗毛 彩(2口)
青木 繁政(1口)
石川 秀久(1口)
石原 祐教(1口)
白水キミ子(1口)

中村 哲(1口)

永田 昌巳(1口)
庭木正二郎(1口)
久野 智教(1口)
中山 茂(1口)
井原 四郎(1口)

匿名希望(10口)

森 敬恵
岩本 宣善
新開 崇司
鶴 修輔
安武 正雄
市来 徹夫
金子 孝夫

個人協力金B

軍隊の占領という有史以来、初めての屈辱を味わいましたが、アジアにおける欧米宗主国の植民地支配は永久に潰えたのです。この戦略的勝利を偉業といわずして一体何と呼べばいいのでしょうか。わが国の国民として東洋平和のために共に血と汗を流した兄弟感・一体感はいくつ形成されました。台湾の皆様が五十年間に及ぶ日本統治時代の伝統や文化、はては「大和魂」を高く評価し、日本精神として継承している、世界に類を見ない親日的な国家・国民である所以はここに淵源があるのです。

私たちは、昨年の東日本大震災の対応で示された物心両面にわたる世界一のご支援を決して忘れません。また、一党独裁の覇権国家・中共による、尖閣を握めた反日の呼びかけにも拘わらず、微動だにしない国民性に敬意を表します。時代こそ違え、今を遡ること九十三年前の大正八年、韓国における「万歳事件」発生時も、今回と同様「馬耳東風の態度で極めて冷静平穩」に対応されたのが他ならぬ台湾の皆様でした。私たちはこのような誠心に応えるためにも積極的に家族交流・兄弟交流を深め、その紐帯を今まで以上に強固なものにしていきます。

平成十一年以来、私たちは宝覺寺における「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列させていただき、三万三千余柱の御霊の安らかならんとをお祈りしてまいりました。今後も、この顕彰事業を風化させることなく、更に充実・拡大し若い世代に継承していきます。それはこの道こそが「日本人として散華されたご英霊」にお応えする務めであるからです。

以上の決意も新たにわが国の近代史に比類なき勇氣と献身を刻まれたご英霊のご遺徳を偲び、御霊の平安を心より祈念し、慰霊の言葉といたします。

日台の生命の絆 死守せむと 吾日本の一角に起つ

平成二十四年
民國百一年
皇紀二千六百七十二年

十一月二十五日

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

台湾訪問の旅 訪台者一覧 (第1次より第14次までの団員252名)

青木 繁政
赤松 公昭
浅見 晃甲
阿部 敏彦
荒津 雅俊
荒牧 雅也
有吉 賢二
有吉 忠助
安藤 弘子
安藤 政明
飯島 由紀子
家村 志津子
池田 茂美
石川 裕二
石原 秀久
石原 章臣
石原 一二三
石原 祐教
市川 憲三
市来 徹夫
井手 田洋基
稲田 健二
井上 俊治
井上 昌俊
井口 セツ子
井原 四郎

今村 之昭
岩渕 宣仁
岩元 照周
岩本 宣善
ウイクラスレンドラサニー
牛島 康智
江頭 伸一
江崎 君公
エドワーズ博美
大嶋 俊英
太田 玲子
大塚 ヨシ子
大西 敬吾
大西 雅樹
大橋 昭仁
大庭 道夫
大林 さやか
緒方 俊美
小倉 和彦
小倉 弘子
小倉 美帆
小副川 克江
鬼塚 芳治
小野 正明
小濱 実里
小濱 善和

折居 一志
折居 正規
加藤 聖三
梶栗 勝敏
柏原 正弘
金澤 明夫
金澤 千代美
金澤 礼
金子 孝夫
亀渕 武士
亀渕 喜久子
茅野 輝章
茅野 紀子
河野 一寿
神田 勉
木須 治彦
北浜 道
木付 辰生
木付 靖子
城所 尚代
木下 嘉平
木村 権作
木村 賢二
木村 秀人
木村 孝子
清瀬 武子

清瀬 空
桐野 尚枝
桐野 隆徳
國武 利貴
國友 健男
久保 聡子
黒田 務
黄 楷榮
古賀 誠
古賀 靖啓
小菅 紀武吾
小菅 亥三郎
小菅 順子
小辨野 聖也
小松 友子
小松 正隆
小柳 陽太郎
五郎丸 浩
五郎丸 美佐江
坂田 弘
坂田 照子
阪中 三幸
坂本 彰
櫻井 英夫
佐護 美和子
佐々木 建城

佐々木 朗子
佐々木 佳重
佐竹 秀三
佐竹 冬子
佐藤 正子
佐藤 吉彦
讃井 健三
塩先 晋照
重松 源吉
重松 博子
篠原 章好
柴田 知則
柴田 好章
島 啓三
島 むつみ
下田 健一
下田 純子
白水 キミ子
新谷 章
菅沼 寛
菅沼 由美
杉山 雄一
角 洋一郎
妹尾 和之
高須 賀俊一
高田 信一

『日華(台)親善友好慰靈訪問団を代表し、

原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の御霊の御前にて

謹んで祭文を奏上いたします。』

祭文

『軍人ハ信義ヲ重シヘシ 凡 信義ヲ守ルコト常ノ道ニハアレトワキテ軍人ハ信義ナクテハ一日モ隊伍ノ中ニ交リテアランコト難カルヘシ 信トハ己ガ言ヲ踐行ヒ義トハ己カ分ヲ盡スライフナリ』(軍人勅諭より)

これは明治十五年の軍人勅諭の一節です。この中で明治天皇は欧米列強の重圧をはね返し、新生日本を守るため、世界に伍して建国していく御意志を明らかにされました。そのため建軍間もない「大伴・物部ノ兵」にその守るべき訓誡を五箇条に亘ってお示しになりました。

中でも「信義」は、単一の意志に従って行動する武装せる共同体である軍隊にとつては、必要欠くべからざる徳目であります。同じ国民とはいえ、人と人が目的と使命を共有し、御国のために命を賭して任務を遂行するには、血を分けた兄弟以上の信頼関係が構築されなければなりません。わが国の軍隊はことの外この「信義」を重んじ、数々の国難に立ち向かってきました。朝鮮半島の自立を賭けて戦われた日清戦争しかり、実に軍人勅諭によって勝利したと言つても過言ではありません。その結果、当時の宗主国・清は「鳥もさえずらない、木々には花も咲かない」といつて、この台湾を「化外の地」と切り捨て、わが国・日本に永久に割譲しました。

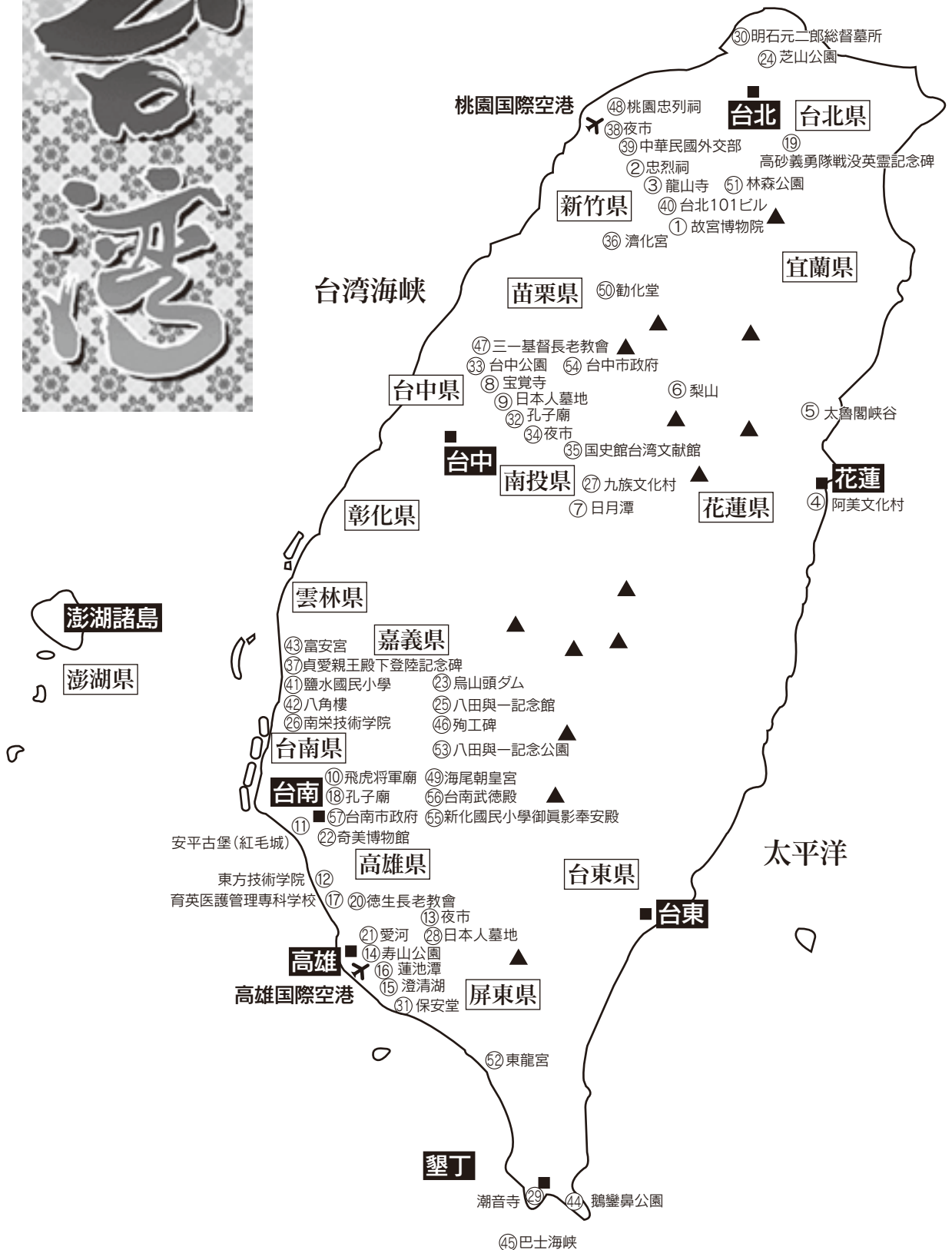
爾来、日台両民族の渾身の努力により、台湾はわが国でも有数の慈愛溢れる豊かな地域となりました。それは、欧米諸国の羨望の的となり、朝鮮半島や支那大陸における満州国と同様、国家建設のお手本とされるまでになりました。とりわけ台湾の皆様は「信義」を理解し、私たち日本人と接する中で、武徳の資質を瞬く間に修得されたのです。そのような中、昭和十六年十二月八日未明、マレー半島コタバル上陸で開始された大東亜戦争により台湾の運命は大きく変わりました。今、英霊として眠っておられる皆様は、わが国・日本の国軍兵士として、たつたひとつしかない命を楯に、欧米列強によるアジア支配を覆すべく、決然起つて散華された、かけがえのない同胞です。

国家・国民の総力を挙げた三年九ヶ月にわたる戦いの結果、わが国は外国

高野	治之	徳田	慎也	野見	山 優	藤末	潔一	安河	内 彦
高橋	成子	戸田	幸雄	羽音	修平	藤村	耕一郎	八尋	妙子
高原	裕之一	堂端	聖子	濱田	修	星野	典秀	山鹿	好史
田尻	伯央	中尾	博憲	原林	千里	堀川	孝友	山口	自然
田中	夫純	中島	重夫	原田	克紀	前田	克巳	山口	秀智
田中	秀男	中嶋	大介	原田	和典	前原	治義	山口	智子
田中	キミヨ	中村	信輔	原田	經子	前原	清美	山下	英明
田中	咲夫	中村	浩哲	原田	泰宏	前原	照美	山下	亜希子
田中	道幸	中村	卓	東 昭	臣	又丸	美次	山田	賢悟
谷 亜	希子	中村	朝子	久野	智教	松岡	祐貴	横山	悟
谷尾	侃	中村	那津子	久野	睦子	松下	美佳	吉村	勝美
谷口	祐子	中村	英夫	日高	誠	松俵	実	吉村	恭二
田村	邦明	中山	辰郎	日吉	治悦	松永	義博	頼永	幸徳
反田	邦彦	永田	昌巳	平泉	美弘	松原	子弥	力武	朗樹
反田	由美子	永田	昌巳	平尾	武敏	三好	政裕	脇山	崇文
團 宝	誠	永田	タマミ	平永	明伍	村山	誠	渡邊	博文
陳 怡	勲	永田	裕章	平野	由彦	村山	淳	渡邊	一弘
塚田	征二	永田	正紀	平松	和彦	村山	初美		瑞枝
塚本	能久	南條	實一	平石	扶二	森 敬	恵		
辻森	弘美	西山	一也	廣岡	有美	森 晴	治子		
土山	彬	庭木	洋	福田	滋子	森 靖	学		
鶴 修	輔	野口	正二郎	福田	史子	森 下	昭雄		
鶴田	栄	野田	ヨシエ	藤田	洋子	守田	大輔		
出口	清		正治		達男	矢ヶ部			

敬称略50音順

但し、家族は「長幼の序」に従った



〈一目でわかる訪問先・交歓先〉

〈訪問先〉(訪問年月日順／日付は初回訪問日)

- ①故宮博物院／H11.3.6
- ②忠烈祠／H11.3.6
- ③龍山寺／H11.3.6
- ④阿美文化村／H11.3.6
- ⑤太魯閣峽谷／H11.3.7
- ⑥梨山／H11.3.7
- ⑦日月潭／H11.3.7
- ⑧宝覺寺／H11.3.8
- ⑨日本人墓地(台中)／H11.3.8
- ⑩飛虎將軍廟／H11.3.8
- ⑪安平古堡(紅毛城)／H11.3.8
- ⑫東方技術学院(旧東方工商専科学学校)／H11.3.8
- ⑬夜市(高雄・六合路)／H11.3.8
- ⑭寿山公園／H11.3.9
- ⑮澄清湖／H11.3.9
- ⑯蓮池潭／H11.3.9
- ⑰育英医護管理専科学学校／H12.11.24
- ⑱孔子廟(台南)／H12.11.24
- ⑲高砂義勇隊戦没英霊記念碑／H13.11.26
- ⑳徳生長老教會／H14.6.8
- ㉑愛河／H14.11.23
- ㉒奇美博物館／H14.11.24
- ㉓烏山頭ダム(烏山頭水庫)／H14.11.24
- ㉔芝山公園／H14.11.26
- ㉕八田與一記念館／H15.11.24
- ㉖南栄技術学院／H15.11.24
- ㉗九族文化村／H15.11.25
- ㉘日本人墓地(高雄)／H16.11.23
- ㉙潮音寺／H16.11.24
- ㊀明石元二郎総督墓所／H16.11.26
- ㊁保安堂／H17.11.23
- ㊂孔子廟(台中)／H17.11.25
- ㊃台中公園／H17.11.25
- ㊄夜市(台中・中華路)／H17.11.25
- ㊅国史館台湾文献館／H17.11.25
- ㊆勸化堂／H17.11.25
- ㊇貞愛親王殿下登陸記念碑／H19.11.24
- ㊈夜市(台北・士林区)／H19.11.25
- ㊉中華民国外交部／H19.11.26
- ㊊台北101ビル／H19.11.26
- ㊋鹽水國民小學／H20.11.24
- ㊌八角樓／H20.11.24
- ㊍富安宮／H20.11.24
- ㊎鵝鑾鼻公園／H21.11.23
- ㊏巴士海峡／H21.11.23
- ㊐殉工碑／H21.11.24
- ㊑三一基督長老教會／H22.3.13

- ㊒桃園忠烈祠／H22.3.14
- ㊓海尾朝皇宮／H22.11.23
- ㊔勸化堂／H22.11.25
- ㊕林森公園／H23.11.22
- ㊖東龍宮／H23.11.23
- ㊗八田與一記念公園／H23.11.24
- ㊘台中市政府／H23.11.24
- ㊙新化國民小學御眞影奉安殿／H24.11.23
- ㊚台南武徳殿／H24.11.23
- ㊛台南市政府／H24.11.23



現地メディアの取材を受ける小菅団長(台北)

〈交歓先〉(交歓年月日順／日付は初回交歓日)

- 許國雄先生／H11.3.8
- 台灣中日海交協會／H11.11.24
- 蘇金淵先生／H11.11.25
- 蕭興從先生／H11.11.25
- 詹徳寛先生／H14.11.23
- 許文龍先生／H14.11.24
- 何怡涵・陳清華ご夫妻／H15.11.24
- 台灣台日海交會(旧「台灣台日海交聯誼會」)／H16.11.24
- 台中市日本文化協會／H16.11.25
- 王春茂・馮英鳳ご夫妻／H16.11.25
- 沈芳以・呉月雲ご夫妻／H17.11.25
- 蔡焜燦先生／H18.11.26
- 台日文化經濟協會／H18.11.26
- 黃明山・葉美麗ご夫妻／H20.11.24
- 黃崑虎先生／H21.11.24
- ラバウル會／H22.11.24
- 陳玉梅先生／H24.11.26

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
第1次訪問 23名 H.11.3.6～9 土～火 ガイド 李 燕光 神職 なし 旅行社 ヤマトトラベル (15ヶ所)	①故宮博物院 ②忠烈祠 ③龍山寺 ④阿美文化村 (花蓮泊)	⑤太魯閣峡谷 ⑥梨山 ⑦日月潭 (日月潭泊)	⑧宝覺寺 ⇒日本人墓地(慰霊式) ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩安平古堡 ⑪東方工商専科学学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑫夜市 (高雄泊)	⑬寿山公園 ⑭澄清湖 ⑮蓮池潭
第2次訪問 17名 H.12.11.23～26 木～日 ガイド 陳 賜賢 神職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④育英医護管理専科学学校 ⇒東方工商専科学学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑤孔子廟 ⑥安平古堡 ⑦飛虎將軍廟(慰霊式) (台中泊)	⑧宝覺寺⇒ 日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	
第3次訪問 38名 H.13.11.23～26 金～月 ガイド 陳 賜賢 神職 古賀靖啓 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①故宮博物院 ②夜市 (高雄泊)	③東方工商専科学学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ④孔子廟 ⑤安平古堡 ⑥飛虎將軍廟(神事) (台中泊)	⑦宝覺寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭／神事) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	⑨高砂義勇隊戦没英霊 記念碑(神事)
第4次訪問 38名 H.14.11.23～26 土～火 ガイド 呂 見清 神職 古賀靖啓・田村邦明 旅行社 近畿日本ツーリスト (12ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③愛河⇒交歓会 (詹徳寛先生) ④夜市 (高雄泊)	⑤孔子廟 ⑥奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ⑦飛虎將軍廟(神事) ⑧烏山頭ダム (台中泊)	⑨宝覺寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭／神事) ⑩交歓会(台湾中日海交協会) ⑪日月潭 (台中泊)	⑫芝山公園(慰霊式)
第5次訪問 23名 H.15.11.23～26 日～水 ガイド 呂 見清 神職 堀川克巳 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①飛虎將軍廟 (神事) (台南泊)	②烏山頭ダム⇒八田與一・ 外代樹夫妻墓所(神事) ⇒八田與一記念館 ③奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ④南栄技術学院 ⑤交歓会(何怡涵・陳清華 ご夫妻) (台中泊)	⑥宝覺寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭／神事) ⑦九族文化村 ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台中泊)	⑨芝山公園(慰霊式)
第6次訪問 8名 H.16.11.23～26 火～金 ガイド 林 英志 神職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (11ヶ所)	①日本人墓地 (慰霊式) ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④潮音寺(慰霊式) ⑤飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥交歓会(台湾台日海交聯 誼會) (台中泊)	⑦宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) ⑨交歓会(台中市日本文化協会) ⑩交歓会(王春茂・馮英鳳ご夫妻)	⑪明石元二郎総督墓所 (慰霊式)

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第7次訪問 20名 H.17.11.23～26 水～土 ガイド 林 英志 神職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト	①保安堂 ②寿山公園 ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	④飛虎將軍廟(慰靈式) ⑤奇美博物館 ⑥烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式) ⑦交歓会(台灣台日海交聯誼會)	⑧宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑨交歓会(台灣中日海交協会) ⑩交歓会(台中市日本文化協會)⇒孔子廟⇒台中公園 ⑪交歓会(沈芳以・呉月雲ご夫妻) ⑫夜市	⑬明石元二郎総督墓所(慰靈式) ⑭芝山公園(慰靈式)	
(14ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台中泊)		
第8次訪問 35名 H.18.11.23～26 木～日 ガイド 簡 添宗 神職 なし 旅行社 協進観光	①保安堂(慰靈式) ②交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	③飛虎將軍廟(慰靈式) ④奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ⑤烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式)⇒八田與一記念館 ⑥交歓会(台灣中日海交協会)	⑦宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑧交歓会(台灣台日海交會)※台中市日本文化協會合流 ⑨國史館台灣文獻館(調査) ⑩清化宮(慰靈式)	⑪高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰靈式) ⑫講話(蔡焜燦先生)⇒交歓会(台日文化經濟協會)	
(12ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)		
第9次訪問 25名 H.19.11.23～26 金～月 ガイド 簡 添宗 神職 なし 旅行社 協進観光	①保安堂(慰靈式) ②奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	④飛虎將軍廟(慰靈式) ⑤烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式)⇒八田與一記念館 ⑥貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑦交歓会(台灣台日海交會)※台中市日本文化協會合流	⑧宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑨交歓会(台灣中日海交協会) ⑩清化宮(慰靈式) ⑪夜市	⑫中華民國外交部 ⑬台北101ビル ⑭交歓会(台日文化經濟協會)	
(14ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)		
第10次訪問 31名 H.20.11.22～26 土～水 ガイド 簡 添宗 神職 なし 旅行社 JTBトラベル九州	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰靈式) ②芝山公園(慰靈式)	③保安堂(慰靈式) ④東方技術学院 ⑤奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰靈式) ⑦交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	⑧烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式)⇒八田與一記念館 ⑨鹽水國民小學⇒八角樓 ⑩交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) ⑪貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑫富安宮 ⑬交歓会(台灣台日海交會)	⑭宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑮交歓会(台灣中日海交協会) ⑯清化宮(慰靈式) ⑰夜市	⑱中華民國外交部 ⑲交歓会(台日文化經濟協會)
(19ヶ所)	(台北泊)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)	

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第11次訪問 30名 H21.11.22～26 日～木 ガイド 簡 添宗 神職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) (墾丁泊)	②鵝鑾鼻公園 ③潮音寺(慰霊式) ④巴士海峡(献花式) ⑤奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) ⑧夜市 (高雄泊)	⑨烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒殉工碑(献花式)⇒八田與一記念館 ⑩交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) ⑪鹽水國民小學(歡迎式典)⇒八角樓 ⑫交歓会(黃崑虎先生) ⑬交歓会(台灣台日海交會) (台中泊)	⑭宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑮孔子廟 ⑯交歓会(台湾中日海交協会) ⑰濟化宮(慰霊式) (台北泊)	⑱高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会(台日文化經濟協會)
第12次訪問 46名 H22.11.22～26 月～金 ガイド 簡 添宗 徐 永隆 神職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (20ヶ所)	①芝山公園(慰霊式) ②講話(蔡焜燦先生) (台北泊)	③烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒殉工碑(献花式)⇒八田與一記念館 ④交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) ⑤海尾朝皇宮⇒飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰霊式) ⑦交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑧鹽水國民小學(歡迎式典) ⑨交歓会(ラバウル会) ⑩宝覺寺(A班)、台中公園(B班) ⑪交歓会(台灣台日海交會) ⑫夜市 (台中泊)	⑬宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海交協会) ⑮勸化堂(献花式) ⑯濟化宮(献花式) ⑰交歓会(紅乙女酒造) (台北泊)	⑱高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会(台日文化經濟協會)
第13次訪問45名 H23.11.22～26 火～土 ガイド 簡 添宗 呂 芳儀 僧職 塩先晋照 旅行社 JTBトラベル九州 (17ヶ所)	①中華民國外交部 ②高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ③交歓会(台日文化經濟協會) ④林森公園 (台北泊)	⑤飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ⑦東龍宮(慰霊式) ⑧交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑨保安堂(慰霊式) ⑩烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒殉工碑(献花式)⇒八田與一記念館⇒八田與一記念公園 ⑪台中市政府 ⑫交歓会(台灣台日海交會) (台中泊)	⑬宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) (台北泊)	⑯明石元二郎総督墓所(慰霊式) ⑰芝山公園(慰霊式)
第14次訪問38名 H24.11.22～26 木～月 ガイド 簡 添宗 曾 英明 神職 なし 旅行社 JTB九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	③東龍宮(慰霊式) ④新化國民小學御眞影奉安殿 ⑤台南武徳殿 ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦台南市政府 (台南泊)	⑧鹽水國民小學(歡迎式)⇒八角樓 ⑨貞愛新王殿下登陸記念碑(献花式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台灣台日海交會) (台中泊)	⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会(台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化經濟協會) (台北泊)	⑰芝山公園(慰霊式) ⑱中華民國外交部 ⑲林森公園 ⑳交歓会(蔡焜燦先生・黃文雄先生)

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所



濟化宮(新竹)



芝山公園、六士先生墓所(台北)



明石元二郎総督墓所(台北)



宝覺寺「靈安故郷」碑と森晴治顧問(台中)



蔡焜燦先生(台北)



高砂義勇隊戦没英霊記念碑(台北)



貞愛親王殿下登陸記念碑(布袋)



飛虎將軍廟(台南)



保安堂(高雄)



東方工商専科学校、許國雄先生と(高雄)



奇美博物館、許文龍先生と(台南)



潮音寺(墾丁)



日本人墓地(高雄)



蓮池潭、詹德寛先生と(高雄)

第14次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 帰朝報告

期間 平成二十四年十一月二十二日（木）～二十六日（月）

参加者 三十八名

■十一月二十二日(木)

総勢三十八名の今次訪問団員のうち、二十二日福岡出発の二十五名は、八時に福岡空港国際線出発ロビーに集合し、搭乗手続きを終えた後、VIPルームで簡単な出発式を行いました。昨年まではDVDの制作をシネマトグラフにお願いしていましたが、今回は松俵義博常任顧問の紹介で、愛知県から吉村幸徳氏に団員として参加してもらいました。

森敬恵先生の「海ゆかば」に感動

出発式後出国手続きを済ませた一行は、チャイナエアライン111便で十時十分空路台北へ向けて旅立ちました。機内食をいただいて寛いだ後、現地時間十一時四十分は無事桃園空港に降り立ちました。入国手続を済ませて空港待合室に出ると、今回七度目となるガイドの簡添宗さんが暖かく出迎えて下さいました。ここで中部国際空港出発の石原祐教氏と合流した後、待合室の一角で班毎の自己紹介を行いました。これから、五日間寝食を共にする仲間としての意識の醸成に大いに役立ちました。自己紹介を終えた一行は専用バスで松山空港へ向かい、そこで東京出発組の五名の皆さん、及び結婚で台湾へ帰国した黄楷 台湾支部事務局長と合流しました。黄事務局長は五日間我々に同行してくれることになっており、非常に心強い限りです。その後、台北十四時三十分発の新幹線で南下し、車窓から台湾の田園風景を楽しみながら、十六時六分に高雄の左營駅に到着しました。再び専用バスに乗り換えた一行は、趙麗恵さんと地元の方々が出迎えられる保安堂へと向かいました。保安堂に着くと、早速国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花の慰霊式を斎行しました。今回は東京から歌手の森敬恵先生が同行されていたので、「君が代」と「海ゆかば」を伴奏に合わせて歌っていただきましたが、素晴らしいお声で、特に「海ゆかば」は真心のこもった調べ

で、黙祷を捧げながら心が感動で震え、十四回の訪問で初めての経験でした。御祭神の帝國海軍艦長もさぞかし喜ばれたに違いありません。

慰霊式を終えた後、隣りに建立中の堂を見学しましたが、鮮やかな色彩の建物はほぼ完成していて、平成二十五年中には落成式を執り行う予定だそうです。参列を懇願されました。今年もいつものぜんざいが用意されていて、バナナやポンカンと一緒に美味しくいただきました。

恒例となった

「アイビージャエイヤー」

名残りを惜しみつつ保安堂を後にした一行は、黄明山、葉美麗台湾支部長ご夫妻主催の歓迎夕食会に臨みました。会場には支部長ご夫妻をはじめ、ご家族やご親族、支部長の職場の方々等多くの皆さんが集っておられ、心から歓迎していただきました。お土産の贈呈に続いて、長女の黄事務局長の通訳で支部長の歓迎の挨拶、団長の答礼の挨拶の後祝宴となり、各テーブルで旧交を温めました。今年も恒例となった「アイビージャエイヤー」の合唱で大いに盛り上がり、楽しい一時を過ごしました。来年の再会を約してお開きとなり、一行は宿泊先の華園大飯店で旅の疲れを癒しました。

■十一月二十三日(金)

ホテルで早目の朝食を摂った一行は、屏東縣にある東龍宮を目指しました。ここは黄事務局長が良縁に恵まれたゆかりの場所で、夫の李光立氏のお母様、石羅界さんが建立された廟です。廟に着くと石宮主をはじめ李氏や地元の方々多数が出迎えて下さいました。ここでも国旗敬礼、国歌斉唱に続いて黙祷、献花を行い、田中綱常將軍に慰霊の誠を尽しました。慰霊式の後、石宮主が黄事務局長の通訳で感謝の辞を述べられ、団員一人ひとりにお土産として

御皇米を下さいました。地元の方とスイカやバナナをいただきながら談笑した後、次の訪問地台南へ向かいました。

戦前の奉安殿をしっかりと保存

台南で最初に訪れたのは、新化國小の横にある奉安殿です。領台時代に造られ、天皇皇后両陛下の御真影と教育勅語が奉納されていた建造物が現在も大切に保存されていることに深く感動しました。新化区の姚溪海區長や事情をよくご存知の小学校の元校長先生等がわざわざ来られて、詳しく説明して下さいました。また、特別に扉を開けて三重になっている内部まで見せていただきました。戦前の教育を否定し、奉安殿を取り壊してしまった我が国との落差に愕然とし、複雑な思いを胸に感謝の言葉を述べて、お暇乞いをしました。

当初訪問する予定でいた新化の武徳殿が改築工事中で見学ができなかったため、車窓から眺めながら次の訪問地である台南市中正区にある武徳殿を訪れましたが、あいにく小雨が降り出したので早々に引き揚げ、飛虎將軍廟へと向かいました。

どしゃ降りの雨の中、予定よりも三十分程早く到着した一行は、慰霊式が始まるまで廟内をゆっくり見学したり、地元の方々と話をしたりして開式を待ちました。慰霊式は廟の次第で斎行され、「君が代」斉唱、献花、献果、玉串奉奠、「海ゆかば」斉唱と肅々と進められました。ここでも森先生の「海ゆかば」がひととき美しく響き渡り、杉浦茂峰兵曹長以下三柱もご満足されたのではないかと感じました。着いた時は激しい雨でしたが、不思議なことに慰霊式が終わる頃には雨も上がり、御祭神の感涙だったのかも知れません。帰りしなにお守りとパンフレットをいただきましたが、パンフレットが新装されていて、昨年十三次の記念写真が掲載されており、感慨深いものがありました。

台南市政府を表敬訪問

十三次の台中市政府の表敬訪問に続いて、今回は台南市政府を表敬訪問しました。通されたのは広くて立派な部屋で、頼清徳市長自らが会って下さいました。お医者さん出身の中々の美男子で、多くの女性票を獲得して当選されたそうです。市長の歓迎の挨拶に続いて、小菅団長が答礼の挨拶をしましたが、その中で、「次の市長選挙の時には頼さんにぜひ投票したいと思っていますが、あいにく選挙権がありません。」と述べて、笑いを誘いました。最後に全員と名刺交換をされて、一人ひとりに記念品を手渡され、会話を終わりました。

■十一月二十四日(土)

校長先生が横笛で
「仰げば尊し」を披露

三日目の最初の訪問は鹽水國民小學でした。学校に着いたのが九時頃だったので、丁度地元の朝市が開かれていて、大勢の人達が賑わう様子を見ることができました。

実は、前回までは劉信卿校長先生だったのですが、異動で新しく赴任されたのは盧彦賓校長先生でした。しかし引継ぎがきちんとなされていて、快く迎え入れて下さいました。ただ丁度この日は土曜日で、児童が登校していない関係上、従来の龍踊りや鼓笛隊による歓迎がなく、少し残念でした。しかし、数名の教職員の方が暖かく出迎えて下さり、先ず校内にある鹽水神社に参拝し、いつもの様に木の短冊に願い事を書いて奉納しました。その後、資料館でスライドを交えて学校の説明を受けましたが、何と盧先生は横笛の名手で、自ら「仰げば尊し」を演奏され、その素晴らしい音色に感嘆しました。校内をいろいろと案内していただいた後、記念写真を撮って鹽水國民小學を後にしました。

次に訪れたのは学校のすぐ近くにある貞愛親王殿下御宿泊地です。八角樓とも呼ばれる建物は、貞愛親王殿下が台湾に上陸された際に宿泊された所で、当時のまま保存されています。その上陸された地が布袋で、そこに登陸記念碑が建てられています。碑の前で献

花式を行い、往時のご苦勞を偲びました。碑の横に小さな祠があり、以前と同様近所の年配の女性が守ってくれていて、感謝の念を禁じませんでした。

警察官出身の二団員に
縁のある富安宮

嘉義市内に戻って昼食を摂った後、東石郷にある富安宮を訪れました。義愛公と慕われている森川清治郎巡査をお祀りしているお宮で、今回二度目の訪問です。中村哲、藤末耕一郎両団員が警察官出身ということで、縁のある訪問地です。お宮に到着すると、富安宮管理委員会代表の副瀬村村長林泰平氏をはじめ地元の方々十数名が待ておられました。早速、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花と慰霊式を執り行い、森川巡査の御霊の平安をお祈り申し上げました。現在のお宮から数十メートルの所に新宮が建立中で、あと二、三年で完成の予定だそうです。完成すると壮大なものになりそうです。夕方とあって近所の方が大勢買物に集まって来られ、沢山の方に見送られながら、台中市に向けて出発しました。

台中市に入ると、宝覚寺の前で一旦停車し、明日の慰霊式、慰霊祭の案内掲示を門扉に取り付け、台日海交会主催の歓迎夕食会の会場に向かいました。会場前で二泊三日のB日程グループ六名と合流し、揃って入場しました。会場内では簡朝陽会長以下多くの会員の方が待ておられ、拍手で迎え入れて下さいました。旧知の方も多く、再会を喜んだり名刺交換をした後、簡会長と小菅団長の挨拶に続いて開宴となりました。あちこちのテーブルで乾杯をし合ったり、記念写真を撮ったりと、いつもの和やかな雰囲気になりました。カラオケで盛り上がった後、最後に全員で「同期の桜」を大合唱してお開きとなりました。翌日の宝覚寺での再会を約して宿泊先の全国大飯店に戻りました。

■十一月二十五日(日)

軍人勅諭の「信義」を
基調にした祭文に感銘

B日程グループが加わって三十八名

となった一行は、慰霊訪問の最大の目的である「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列するため宝覚寺を訪れました。先ず境内の一隅にある日本人遺骨安置所(日本人墓地)前に整列し、一万四千余柱を慰霊するために慰霊式を斎行しました。お墓の周囲を簡単に清掃し、お酒と果物をお供えた後、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花に続いて二人ずつお線香を上げて、ご冥福をお祈りしました。墓地のまわりに大勢の日本人観光客がおられたので声をかけると、百人近い人がお線香を上げて下さり、御霊もさぞかし喜ばれたことと思います。

その後「慰安故郷」の碑の前に移動し、慰霊祭に臨みました。以前は海原会等の戦友会の皆さんが多く参列されていましたが、その姿は殆んどなく、訪問団が最大の団体になってしまいました。遺族の方々も高齢化が進んでおり、若い世代への継承が喫緊の課題だとの思いがますます強まっています。

主宰者を代表して簡会長が挨拶をされた後、ご遺族に続いて小菅団長が祭文を奏上しましたが、軍人勅諭の「信義」を基調とした内容は、参列者の多くに深い感動と感銘を与え、心に響き渡りました。

慰霊祭が終わると、台湾の皆さんを交えて記念写真を撮り、黄金色の大仏様が鎮座する境内を散策した後、歓迎昼食会迄の約一時間、近くにある孔子廟を見学しました。見学を終えて昼食会場に着くと、中日海交協会の胡順來会長をはじめ会員の皆様が待ておられ、開始時刻まで談笑して旧交を温めました。歓迎会は胡会長の歓迎の辞、小菅団長の答礼の挨拶、交流協会台北事務所の尾形誠氏の来賓挨拶、森先生の「海ゆかば」独唱、原田泰宏副団長の「鶴亀」の仕舞、木村秀人副団長の乾杯と進み、賑やかな祝宴となりました。あちこちで歌声が響き、アコーディオンの演奏もあってしばし時の経つのも忘れてしまいました。丁度隣の会場では結婚披露宴が催されていて、お互いに大いに盛り上がったところで、お開きとなりました。

濟化宮で黄文雄先生と合流

台日海交協会の皆さんと別れた後、

バスは台湾の靖國神社・濟化宮を目指しました。幹線道路から山道に入るとしばらく走ると、濟化宮に到着しましたが、そこで毎年六月に台湾特別講演会で、ご講演をいただいている黄文雄先生が待っておられました。先生とは台中市の昼食会場で合流する予定でしたが、うまく連絡がつかず、新幹線の新竹駅からタクシーで駆けつけて下さったそうです。

濟化宮の謝鏡清董事長の案内で本殿まで行き参拝をしましたが、昨年に続き、ここで永田昌巳常任顧問の奥様のタマミ様が朗々と「九段の桜」を吟詠されました。本殿に響き渡る声が心に沁み入り、散華された英霊もさぞかしお喜びになられたらと思うました。その後、靖國神社から分祀された四万余柱の霊璽を拝見させていただき、社務所の前でいつものお餅とお茶を美味しくいただきました。

謝董事長をはじめ職員の皆さんに見送られ出発した専用バスは、新幹線の新竹駅へと向かいました。例年は濟化宮から台北市内へはバスで移動してきましたが、いつも台北市内で渋滞に巻き込まれて時間が読めないこともあり、今回は新竹駅から台北駅まで新幹線を利用することにしました。新竹駅を十八時二十八分に出発した列車は定刻十九時には台北駅に到着し、台日文化經濟協会主催の歓迎夕食会会場に時間通り着くことができました。

親密さを深める台日文化經濟協会

会場の海霸王では黄天麟会長以下役員の方々が既に待っておられ、一年振りの再会を喜び合いました。黄会長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶の後、永石辰郎名誉顧問の乾杯で開宴となり、台北市内でも有名な海鮮料理に舌鼓を打ちました。日曜日にもかかわらず私の行程に合わせて歓迎会を催していただいたことに心から感謝すると共に、今後益々友好の絆を強固なものにしてゆかねばとの思いを新たにしました。

来年の再会を約して台日文化經濟協会の皆さんと別れた一行は、宿泊先の三徳大飯店にチェックインした後、足裏マッサージ組や夜市見学組に分かれて台湾最後の夜を満喫しました。

夜市見学組は有名な士林夜市に繰り出し、大勢の人で賑わう露路を小一時間程そぞろ歩きして、台湾のパワーをいただいて帰りました。

■十一月二十六日（月）

雨の中で六士先生の慰霊式

訪問最終日はあいにくの雨模様でしたが、芝山公園にある六士先生の墓所を訪れました。足許が悪いので、お墓ではなく「学務官僚遭難之碑」の前で慰霊式を斎行しました。雨の中、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷に続いて、副団長の矢ヶ部大輔福岡教育連盟執行委員長が教育関係者ということで、献花、挨拶をされました。第四次訪問の時、それまで降っていた雨が私達が芝山公園で慰霊式を実行している間だけぴたりと止むという奇跡が起りましたが、今回は奇跡は起こりませんでした。しかし雨の中でもきちんと定石を貫いたという満足感を皆抱いて下山しました。

中華民国外交部で 「海ゆかば」の独唱と黙祷

芝山公園を後にした一行は、中華民国外交部を表敬訪問しました。広いレセプションルームで接遇されたのは、蘇啓誠亜東関係協会副秘書長でした。流暢な日本語で日台両国の現状や今後の展望を含めて挨拶されたのに続いて、小菅団長が団員一人が日本国民三百万人を代表して訪問しており、日本政府が台湾に礼を尽さないなら私達がやると強い決意を答礼の挨拶で述べました。そして今回予期せぬハプニングが起きました。小菅団長が団員の一部を紹介する中で、森先生が歌手であることを披露すると、蘇副秘書長が「一曲どうですか」と勧められました。そこで「海ゆかば」を歌うことになり、森先生の独唱に合わせて、団員一同起立して黙祷しました。恐らく外交部で「海ゆかば」を歌い、黙祷するのはこれが初めて最後だろうと思います。

約一時間の会見を終えた一行は、蘇副秘書長を交えて記念写真撮影をした後、次の訪問地である林森公園へと向かいました。

陳玉梅台北市議から鳥居の説明

昨年初めて林森公園を訪れましたが、今年は公園内に明石元二郎台湾総督と乃木希典大将の母上の鳥居の復元に尽力し、実現させた陳玉梅台北市議が直々に説明をして下さいました。激しい雨の中、公園で私達を待っておられた陳市議と関係者の方々は、私達が到着するや、雨が激しいので来られないかもしれないと思っていましたと苦笑しながら、矢継ぎ早に復元の経緯や意義を説明されました。雨の中、約束をきちんと守られた市議故に、鳥居の復元も成立したのだらうと確信しました。

蔡焜燦先生と黄文雄先生を 交えての昼食

林森公園を後にした一行は、台北市内のレストランで昼食を摂りましたが、この席に蔡焜燦先生が駆けつけられました。先生とは第十二次訪問でお会いして以来、二年振りの再会です。先生は会場に着くと「きょうは手ぶらで来たので、飲み物代は手土産代わりに私がおごります。」と言われ、豪放磊落振りを発揮されました。席に着くと、ユーモアたっぷりに挨拶をされ、皆の笑いを誘いました。計らずも、蔡先生と黄文雄先生が同席されての昼食となり、とても良い思い出になりました。

昼食を終えるとお土産店に立ち寄り、日本で帰りを待ちわびておられる方へのお土産を買って、空港へと向かいました。羽田空港行きの五名の団員と松山空港で五日間の貴重なご縁に感謝しつつ別れ、残り三十二名の団員は桃園空港に到着しました。搭乗手続を済ませると、五日間お世話になったガイドの簡さんと黄事務局長に厚くお礼を述べ、来年の再会を約束して出国ゲートへと進みました。一行を乗せたチャイナエアライン 110 便は一七時三十五分空港を飛び立ち、日本時間二十時四十分は無事福岡空港に着陸しました。入国手続を済ませた一行は、空港ロビーで簡単な解散式を行い、全員の無事の帰国と台湾の皆様方の心温まるおもてなしに感謝しつつ、沢山のお土産と思いを抱え、一月の帰朝報告会での再会を約して帰路につきました。

（文責 原田和典）

第14次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 紀行文集(抄)

掲載は名誉顧問・常任顧問・副団長・班長・一般団員の順とした。

『歴史とは虚飾、捏造、歪曲されない
真実を後世に伝えていくもの』
それが親善友好の絆となる。

ながいし たつろう
名誉顧問 永石 辰郎氏

日華(台)親善友好慰霊訪問の旅に参加したのは旧陸軍学校の親しい同期生の日高誠君の勧誘があり、訪問団の目的や現地における行事内容の概要を聴取し、旧軍人として、また旧同胞としての思いから平成二十二年から今回まで三回連続で慰霊団の一員として参加してきた。

日本の領有時代の同国に対する施政結果が、今日なおどのような成果が生きつづけているか、また先の大戦で台湾の同胞の戦病死者約三万三千名とも知るに及び、そのことに対する国民感情はいかなるものであろうかという二点が私自身の関心事でもあった。前年の感想記事にも記述したとおり「百聞は一見に如かず」という言葉があるとおりに、現地に足を踏み入れてはじめて現状の実態や民心の動向が実感として捉えられ回を重ねていく度にその想いは深みを増していく。

台湾はご参加の皆様が等しくご承知のとおり明治二十七、八年の日清戦争の勝利により日本の領有統治となったが、明治以来終戦まで台湾に対する内政は日本内地並という基本方針のもとに五十年間続けられ、教育、インフラ、医療、産業のあらゆる分野に亘って開発が行われ、この為、民生の安定、民度

の向上は勿論、物心両面に亘り、充実発展を見た。李登輝元総統の言であるが『よく指摘される台湾人の「日本精神」ですが、これも台湾精神の重要な一つだと言わなければなりません。これは日本の統治時代に台湾人が学び、ある意味では純粋培養されたとも言える勇氣、勤勉、奉公、自己犠牲、責任感、遵法はおそらく中国から来た統治者たちが持たないところの、台湾人の近代的国民としてのこれらの素養、気質を台湾人自ら誇りを以って「日本精神」として台湾に根付いた…』

このような言葉を知るにつけ、日本精神は特に国家感台湾に生き続け台湾住民の誇りとして根づいていることが実感されます。これこそ「私は私でない私」という「公」優先から出た指導理念でもありましょう。

さて昨年の訪台で特にわが心を打ったことは十一月二十五日の台中の禅寺宝覺寺の境内に李登輝元総統の書による「靈安故郷」の碑文の慰霊碑がある。当日台湾の台日海交会による例祭と私達一行の例祭が一緒になり、海交会所属の例祭が先に執行された。例祭には祭文が読まれるが当日は元従軍看護婦だった劉張蕊さんが原稿なしで然も日本語で御霊に語りかけるように捧げられた。当時戦病死された台湾の方々は日本人というわが同胞であったことから、命がけで日本語で祭文を捧げられたことと思う。後方には日本から来た観光客も沢山参列していましたが、感動のあまりひとしく涙していま

した。日本語で祭文を捧げられたことは中国はモニターしていたとも考えられるが、そのこともおそれをなすこともなく、正に生命をかけた勇氣には頭が下がり、今日に至るまで感動の余韻はつきない。

本年も慰霊の各地で現地の方々と慰霊祭が行われ、最初は台湾の南の高雄の保安堂での例祭でしたが、昨年は建築中であつたが、松俵さんの心からの私財を投ぜられた堂々たる龍柱二本も加わり異彩を放っていた。いづれの慰霊地でも地元の方々による心のこもった歓迎の宴と直会が行われ心温まるものであった。このことは日台親善友好の絆の証しでもあろう。

また今年は初めて台南市廳の知事(市長)の賴清徳市長への表敬訪問が行われた。当日市長の私達一行への歓迎のスピーチの内容は見事なもので、結論的に内容を私なりに纏めると正にご本人の本心、良心から発せられた聊かの虚飾や儀礼的なもので無く「日台交流」が益々深化していくことを只管念じておられる内容そのものであった。未だお若く見えた市長さんでしたが、知性と人徳の豊かさが実感させられたひとときでもあった。これも市長のご性格からでたものであろうが、市長の幼い時からの日台関係の教育による歴史認識やご家庭の祖父母様やご両親様から受けられたご家庭教育がご本人の心の奥底にひそむ潜在意識の中に刻みこまれている一つの証左ではなかろうか。それに応えられた小菅団長の答

●ご協力ありがとうございます。

日華(台)親善友好慰霊訪問団 台湾支部

支部長 黄 明 山

☎(07)751-4906

高雄市鳳山區南正一路
2巷11弄5號

事務局長 黄 楷 棻

☎(08)878-6520

基隆市信義區深溪路
31巷48號1樓

美祿市総合観光部

☎(0837)52-1532

〒059-2292
山口県美祿市大嶺町東分326-1

礼の内容も市長の日台の友好親善の絆の深化に答えた心からの感謝そのものの内容だった。

また今回は東京から森敬恵女史というプロのソプラノ歌手が初めて参加され各慰霊地での「君が代」「海ゆかば」の独唱は慰霊行事の雰囲気や一段と高め、また城所女史は若き大和撫子だけに現地の人々との交流の場で「教育勅語」を堂々と暗誦していただいた。加えて帰国最終日、今回二年振りに李登輝元総統の民主協会理事の蔡焜燦さんに再会し、昼食のパーティも催されたが八十五歳の高齢ながら饗饗(かくしゃく)たるご壮容に接し、また私の陸軍士官学校の同期生で中国の「汪兆銘」臨時政権時代中国から来日して来た孫海峰(故人)君の夫人孫恵美さんとも再会ができたことは何よりの喜びでもあった。

今回は私が唯一人の戦争経験者ということから、ふつつかながら名誉顧問の重責も与えられ、その任も十分果たしえなかったのではないかという思いと反省から、ご一行の皆様に対しても深くお詫び申し上げたい。

最後となりましたが小菅団長の何時もながらのあらゆる面にわたる綿密なご配慮と計画が年を重ねる毎に親善友好の實が発揮され、その精神を汲んで裏方としてお世話頂いた事務局の方々の労に感謝の意を表し筆を擱きます。

台湾との絆・交流を求めて

まつたわら よしひろ しげこ
常任顧問 松俣 義博氏 原田班 茂子氏

第十四次日華(台)親善友好慰霊訪問団に四回目の参加をし、その度に新

しい出会い、再会と感動することがいっぱいです。

保安堂、東龍宮、飛虎將軍廟に行く先々で温かいおもてなし、お土産まで戴いて台湾の方々のやさしさや笑顔に感謝です。

朝夕「君が代」「海ゆかば」を流して日本人を神として祀り六十七年もの間、子供や孫に引き継いで伝えてこれ頭がさがります。

四泊五日の旅のメインは十一月二十五日の台中宝覺寺での慰霊祭です。台湾台日海交会による儀式及び小菅団長による祭文奏上です。毎年参加していつも感動し、涙し、胸がいっぱいになります。小菅団長の考えで日本人墓地の入り口に慰霊祭の案内を掲げ広く告知し、日本からの一般観光客の方々に参拝をお願いしたところ第十三次では団員四十五名、一般観光客七十五名、第十四次の今年は団員三十八名、一般観光客百二十名の方々がご参りして下さいました。小菅団長ありがとうございました。宝覺寺へ日本人観光客を案内する旅行会社の方々には大仏様(布袋様)だけでなく、境内にある日本人墓地にも当然のように案内し、ご参りして頂けることを願っています。

また、今回嘉義県東石郷の田舎で警察官の方がお祀りされている富安宮を訪ねました。村の人々のために自分の身を顧みず尽くし、神(義愛公)として敬愛され、現在、立派な廟が出来つつあります。来年いく機会があれば完成した新しい廟が見られると思います。

本当に奥の深い台湾です。慰霊訪問団に出会えてよかったです。いく度に多くの方々と再会、何よりも嬉しい。田舎で皆さん一日一日を一所懸命過ごしているのに、笑顔や優しさは気持ちのゆとりでしょうか。感謝、感謝です。

また、台南市政府、中華民國外交部等の表敬訪問は、日本では到底考えられず、慰霊訪問団全員をあたたかい接待で迎え入れてくださり、びつくりしました。海外からの要人のための広々とした部屋に通されて、団員ひとりひとりと名刺交換、一生の思い出になります。大変お世話になりました。

スタッフの皆さん毎回大変ですね。小菅団長おつかれさまでした。皆さんに笑顔をやさずきちと説明をされありがとうございました。健康で続くかぎり参加させて下さい。慰霊訪問団が末永く続きますようにがんばってください。

日本と台湾の歴史的淵源は 深く絆は固い

ながた まさみ
常任顧問 永田 昌巳氏 中島班 タマミ氏

第十四次日華(台)親善友好慰霊訪問団に参加させていただきました。四年連続の参加です。毎回のことながら今回も参加する中で団員の方からいろんな意味で多くを学ぶことが出来ます。名誉顧問の永石様から「世界の徳育の手本となった教育勅語と修身」という本の紹介がありました。教育勅語が出来た背景、世界で教育勅語がどう受け止められているか、また、日本ではどうか、今後我々は教育勅語をどう受け止め、どう行動せねばならないか、学ぶことばかりです。

台南市の新化・民生路では教育勅語を奉納してあった奉安殿を拝見しました。歴史的建築として大事に保存されています。大事とすべきは何かを台湾の人々はちゃんと知っています。元校長先生が教育の基本について自信をもつ

●ご協力ありがとうございます。

旅行代理店 (社)日本旅行業協会会員

(株) J T B九州 福岡支店

☎(092)781-8732

〒810-0072 福岡市中央区長浜1-1-35

総合印刷

大道印刷(株)

☎(092)582-0927

〒816-0873
春日市日の出町6-23

て話してくれました。今の日本ではほとんどみることができません。語る人もいません。残念なことです。

森敬恵さんが参加されました。彼女は素晴らしい日本の歌を全国に広めていただいている歌姫です。台北の外交部を表敬訪問の時、「海ゆかば」を歌っていただきました。美しいメロディーと歌声が会場いっぱいに響きました。十四次に亘る慰霊訪台の中で初めての出来事ではないでしょうか。何故こういうことが出来たのでしょうか。私は小菅団長の一言だったと思うのです。嘗て訪問団が外交部表敬訪問を申し入れたとき、中華民国外交部は、慰霊という字を取れば、もっと偉い人に会わせるという返事をしました。すかさず団長は、「尊い命をお国の為に捧げた御英霊よりももっと偉い方がおられるならば是非お会いしたい」と返答されました。この一言がすべてではないでしょうか。この時外交部は御英霊の日本魂を覚醒されたのではなかろうかと思うのです。今回の訪台は「うたの慰霊訪問団」であつたと思います。うたは御英霊の心を慰め、日台の友好の絆を深めてくれます。

鹽水小学校では新任された校長先生の巧みな横笛で「仰げば尊し」の合唱、また台湾の靖国神社「済化宮」では「九段の桜」の吟詠、交流会では日本伝統の謡曲と仕舞、そして懇親会では懐かしい台湾の歌の数々、どれも慰霊と友好の輪を広げるものでした。

昨年、宝覺寺慰霊祭の時、原稿なしで祭文を上げられた高齢の台湾女性の劉さんとお話する機会がありました。流暢な日本語は娘が日本にいるからとのこと。祭文は何回も原稿を書く中で暗記してしまったことなどウラ話を聞くことができました。日本に行った時、若い

日本人の女性と話をする中で、今日、自分達が惨めな思いで暮らさなければならぬのは昭和天皇のためだと悪口雑言、「何を言っているの！今あなたがこうしていられるのは誰のおかげ？昭和天皇がおられなかったら日本は無くなっていたのよ」と叱ってやつたと話されました。今の日本に歴史の真実をハッキリ言える気骨のある人が一体どれだけいるのだろうか。

嘉義県東石郷にある富安宮は私にとっては初めての慰霊訪問地でした。そこには森川清治郎日本巡査が祀られています。何とも寂しい漁村です。私達が行くと何人もの村人が寄ってきて見守ってくれました。村民の窮状に税賦減免を嘆願したが上司の逆鱗に触れ、疑われては致し方ないと銃弾一発、咽喉を打ち抜き、最後は命は義によって軽しと永遠に孤高の人として生きる道を選んだ森川巡査。享年四十二歳。村人は嘆き悲しみ森川を義愛公と称し富安宮に祀っている。

王振栄は著書、時空を超えて息づく「義愛公」の中で次のように記しています。台湾各地に多くの日本人が祀られているが義愛公、森川清治郎をもって嚆矢とする。しかも森川は最下級の巡査である。後世の人々に愛される人は生前に人を愛した人である。愛に国境はなく、誠の愛は万物の逆旅である天地に時空を超えて息づく。森川清治郎は台湾人の生活に身を入れ台湾人の心に愛を点してこそ義愛公と祀られている。森川清治郎の義と愛に感恩し、副瀬の村は貧しかった時代から終戦後の排日政策を挟んで八十星霜を閲して今日至るも一切の政治色を排し、銅臭もなく、虔誠に自彊息まず歴史の落葉を守り続けてきた。領台五十年、日本と台湾の歴史的淵源は深く絆は固い、惟う

に義愛公は日本人の誇りでもあるとも記している。台湾には日本にもっと広めたい日本人魂の史実が多くあります。

今も心に残る「海ゆかば」

副団長 やかべ 矢ヶ部 だいすけ 大輔 氏

私は教育の正常化を目指す教職員団体の代表をしています。今の教育は国家の縦軸を見失っており、日本の精神的な豊かさを築かれた先人たちの立派な生き方に学ぶことや、国家のために必死に戦い尊い命を犠牲にされた方々を心から慰霊すること、国民の安寧を祈ってこられた天皇、皇室を敬う態度、戦後占領政策により否定された教育勅語の精神など戦後教育で失われたものをいかに取り戻すかというところに教育の再興がかかっていると考えます。そういう意味では第十四次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅への参加の目的を今も台湾に息づくと言われる「日本精神」を直接体験し、自ら学び直し、多くの教師や生徒に伝えるようにすることとらえていました。

参加してみても驚いたのは台湾の方々の信仰心の篤さです。初日に訪れた日本海軍の艦長を祀るとされる保安堂や海軍少将田中綱常將軍を祀る東龍宮ではその靈廟の煌びやかな外観と、台湾の方々の崇敬を集めている様子が直に伝わり、度肝を抜かれた感がありました。いただいた資料によれば田中綱常將軍はあのエルトゥール号の生存者六十三名をトルコに送る役割も果たされたそうです。

米軍機の爆撃を受け、取えて集落を避けて落下中に機銃掃射を受けて戦死した軍人「飛虎將軍」杉浦茂峰海軍

●ご協力ありがとうございます。

ひとをつくり まちをつくり くにつくる

九州不動産専門学院グループ

代表 小菅 亥三郎

☎(092)714-4131

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

教育正常化教職員ネットワーク

福岡教育連盟

執行委員長 矢ヶ部 大輔

☎(092)631-2901

〒812-0045

福岡市博多区東公園7-7

福岡県庁地下1階

航空隊少尉を祀る鎮安堂、台湾嘉義県で義愛公として神称された明治領台初期の森川清治郎巡査が祀られる富安宮でも村の人々が日頃から信仰している様子がわかりました。森川巡査は領台当初、病気が蔓延し、生活が困窮し、教育も普及していない状況の中で全身全霊で村人たちに尽くした人だと知りました。税金の督促も警官の職務であった当時、新たな課税の件で上層部と村民の板挟みにあった森川巡査は最後に自決します。台湾人の生活に身を入れて義と愛を全うしたこの義愛公の話に、日本人としての誇りが湧いてくると同時に日本の子供達にも生き方の見本として道徳心を養う上でぜひ伝えたいものだと思います。

かつて帝国軍人として戦われ、台湾統治時代の日本精神を持ち続ける方々との出会いも大きな経験となりました。台湾台日海交会による歓迎会の席では、もう九十歳に近い方とお話する機会がありました。その方が「私達は皆教育勅語によって素晴らしい教育を受けました。あなた方も日本で受け継いでください」と言われたときは適切に言葉を返せなかったことを覚えています。

さて、教育に携わる者としてとても印象深かったことが二つあります。一つは鹽水小学校で見た御眞影奉安殿です。かつて天皇皇后両陛下の御眞影と教育勅語が納められていた奉安殿が台湾の地においてかくも大事に残されていることに感銘を受けました。もう一つは六士先生之墓です。日本の統治後に初めて開校した学校に赴任した六人の教師の死をも恐れぬ教育者としての使命と覚悟に震える思いがしました。小菅団長のご配慮により代表で献花を捧げる役をいただき、この精神を受け継いでいきたいと身が引き締まる思いが

したのを今でも記憶しています。

他にも台南市長、台日文化経済協会の方々、中華民国外交部の方々など台湾の「今」を知るための交流の機会もいただきましたが、歴史をきちんと背負って現代の台湾をリードする方々の謙虚でかつ公共心に溢れる姿勢が見受けられました。

この旅の目的は「ひたすら慰霊に徹することである」と小菅団長は仰いました。かつて日本の国軍兵士として同胞として散華されたご英霊に感謝の誠をささげ、御霊の安らかならんことをお祈りすること、日本人がこの姿勢を失った時、国は滅ぶのだと実感します。毎回の慰霊式で黙祷しながら聞いた森先生による「海ゆかば」の歌声、これは一生消えることなくこの旅を象徴するものとして残り続けます。なんとか教育の場で活かしていかなければ、そう強く思う本当にありがたい旅となりました。小菅団長はじめ、お世話いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

懐かしい再会と 日本文化の発見

はらだ やすひろ
副団長 原田 泰宏氏

三回目の参加

一年おきの参加である今回三回目の慰霊訪問団では、初の副団長を要請された。任務が勤まるか不安で引き受ける躊躇したが、ありがたいお話であること、少しでもお役に立てるならとお引き受けすることにした。主要な任務は軍艦旗を持ち殿軍(大部隊の最後尾で、敵襲に備える部隊)を努めることであったが、幸い敵の来襲をうけることもなく、また団威の顕示や移動時の目印として

役に立つことができた。

さて、私にとっての慰霊訪問の目的は、第一に「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に日本人として参拝し、鎮魂の意を捧げること、第二に我々が失ってきた良き日本文化を発見し、台湾の方々と友好を深め、我が国の誇りある国づくりと日台共栄のヒントを見つけることである。

懐かしい再会と日本文化の発見

以下第二の目的について、体験談と意見を述べてみたい。保安堂、飛虎將軍廟、東龍宮など訪問地では、地元の方々から果物、ぜんざい、お菓子を振舞われ、また全員にお土産をいただくなど、温かいおもてなしを受けた。再訪地では顔なじみとなった方々と再会を喜び、お土産を交わし、来年の再会を誓った。旅程の中に八回ある昼、夕食のうち四回は午餐会、晚餐会として、台湾の方々と酒食を共にし懇親を深める機会に恵まれた。私は、積極的に日本語や事前に覚えた片言の中国語、台湾語で多くの方に話しかけた。また、日本を懐かしみ日本文化を楽しんでもらえればと、紋付袴を身に着けて仕舞(鶴亀)を披露させていただいた。

さて、文化とは生活様式、習慣、伝統などあるが、私が思う失ってきた良き日本文化とは、日本人の誠実さ、自然との共生、勤勉さ、思いやりなどの日本人の特性を挙げたい。具体的には次のような外国人の記述からも知ることができる。フランスコ・ザビエルの『この国の人々は今までに発見された国民のなかで最高であり、日本人より優れている人々は、異教徒のあいだでは見つけられないでしょう。』、イザベラ・バードの『三時間の旅であつたが、他人や私達に対する人々の礼儀正しい態度、そしてすべてのふるまいに私はただただ感

●ご協力ありがとうございます。

ふれあい 学びあい 助けあい
九州不動産専門学院グループ同窓会

九 栄 会

会長 角 洋一郎

☎(092)714-4341

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

売買、賃料、相続、訴訟、担保、資産の評価



社団法人 日本不動産鑑定協会正会員

(株)国際不動産鑑定所

代表取締役
不動産鑑定士 山口 勝彦

☎(092)483-3350

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東1-12-5

博多大島ビル

心するばかりだった。それは美しいものだった。とても礼儀正しくしかも親切。私達の最も良いマナーも日本人のマナーの気品、親切さには及ばない。』、シュリーマンの『この国には平和、行き渡った満足感、豊かさ、完璧な秩序、そして世界のどの国にもましてよく耕された土地が見られる。』、エドワード・モースの『宿に残したお金などが一週間前と全く同じ状態で野押しされており、日本がいかにも安全で人々がどれほど誠実であるかを知った。』である。

先に述べたように、これらの日本人の特性は交流した台湾人の方から気づかされた。特に日本統治時代に台湾で生まれ、日本の教育を受けた日本語世代の台湾の方々は正に戦後の日本人が失った日本人の特性を身につけておられる日本人ではないかと思っている。お会いしてなんとも言い表せない懐かしさを感じるの、私だけではないだろう。

私はそういう日本人の特性を作っているのは、日本語ではないかと思ひ、第一回目から日本語世代の方々と話すことを楽しみにしてきた。戦後日本語が単純に省略され、また経済至上主義や行き過ぎた個人主義などにより日本の伝統が伝えられず、悪いほうに変化してきた日本語ではない本当の日本語が台湾にあると思ったからである。七十年近くたった今でも日本語を流暢にお話しされる日本語世代の方々は、(読み書きも問題なく、戦前の正しい書き言葉を知ることができる)日本再生になくてはならない〔日本の宝〕であると思っている。しかし、日本語世代の方々は前回より減っている。もう、九十歳台がほとんどで時間がない。私がしたいことは、日本語世代の方々の日本語から正しい・美しい日本語を再発見し、現代の人に伝

えることである。今回はビデオを持参したので日本語世代の方が話される日本語・お姿を録画することができた。これを多くの日本人に見せることで本当の日本人の姿に気づかせる方法がないか考えている。

日本人が破壊した 日本文化を守っている台湾

今回、本物の御真影奉安殿を見ることができた。(御真影と教育勅語を収めた金庫も中に保管されていた)戦後、戦前の日本を否定した日本では奉安殿を徹底して破壊してきたため今まで実物を見たことはなかったが、現台南市新化小学校に残っており、元校長先生や市職員の方々から説明を受けることができた。説明によると戦後国民党が進駐してきたときは、奉安殿を中国の宗教施設か国民党歓迎施設にカモフラージュして破壊を免れたそうである。このように本家の日本人が破壊したものが台湾に残った旧日本人が守ってきたことに感謝の気持ちでいっぱいになった。この他に、明石元二郎台湾総督を祀った神社の鳥居を元の位置に建立した台北市議にも感謝したい。こればかりではなく、今の日本が失った有形・無形の日本文化はもつとたくさんあり、この慰霊訪問の旅は日本文化発見の旅でもある。

私は、台湾で日本や日本人が好感をもたれているのは、戦前の日本人が立派な行いをしたからで、このことは日本人を祭神としている事や遺跡を守っていることなどから自分の目で確認することができた。また、日本語世代の方々からは、『当時の日本教育はすばらしかった』、『日本のおかげで今の台湾はある』、『今も日本にならないか』、『兄弟の日本がこまっていた助けるのは当たり前』などの声を聞いた。

戦後、日本では戦前の日本を全面否定した教育を施してきたことから、世界一反日国家と成り下がった日本。戦前と戦後の日本の歴史観、業績、文化が分断され、歴史の継続性がない日本。戦前の日本のそれらを守り保存してきた台湾の方々に感謝しなければならない。

最後に

今回の参加者は二十代の女性から九十近い元陸軍兵士の方まで幅広い年齢、職業の方々が参加されている。今後も、多くの立場の方が参加し、それぞれの立場で、日台共栄のために活動されることと思う。私も、今回慰霊訪問を終え、日本語世代以降の方々との日台の交流並びに共栄を図るため行動していきたいと強く思うようになった。毎回参加する意義がある。次回も訪問団への貢献と自分の課題を解決するため、是非参加したい。

最後に、小菅団長はじめ事務局の皆さん、並びに他の参加者の皆さんのおかげでこの意義ある慰霊訪問団に参加できたことに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

小さくとも正しき基礎は、 その後の発展を約束する

きむら ひでと
副団長 木村 秀人氏

台湾の繁栄を見て、日本の国造りの正しさを思った。住む人が頑張れば、国はできていく、というものではなからう。台湾の土台には日本がある。先人たちがこの島の国造りに人生を賭けたのもなるほどと合点がいった。

小さくとも正しき基礎は、その後の発展を約束する。家が揺るがず、稽古勉強

●ご協力ありがとうございます。

(有)濱崎理想瓦製造所

代表取締役 山下 康仁

☎(092)201-4010

〒891-0101 鹿児島市五ヶ別府町3786-12

快適な住空間の創造

ハウジング アーキテクチャー システム

(株) H A S

代表取締役 田中 道夫

☎(092)663-5510

〒813-0002

福岡市東区下原4-19-17

エトワール21-605

が上達するのも基礎がしっかりしているからである。日本はこの島の国造り、国生みをしたのだ。

だから、台湾はこれからも発展すると、自分は確信した。確信すると別の可能性が出てきた。

もしこの島が日本の手に委ねられなかったら、どうなっていたらだろうか。私たちを温かく迎えて下さるこの人たちの暮らしは、どうなっていたらだろうか。近くは大陸から渡って来た国民党の圧制があったのではないか。もし土台が支那だったら、今日の台湾はない。ロシアだったら、欧米だったら、彼らの植民地にすぎなかっただろう。

明治二十八年、日本は自身の近代化で清国に勝利し、今日、台湾の発展が日本文明の支那に対する文化の勝利を鮮やかに証明する。

台湾はたしかに「海の彼方の日本」である。台湾はその存在で日本を応援してくれる。

私たちは自分たちの国造りに自信をもっている。私たちが日本人である限り、我が国の将来は約束されている。

アイデンティティを共有した 台湾と日本の強い絆

なかしま きみあき
第二班班長 中島 公明氏

旅程の最終日、桃園空港……。また現実に戻されて仕事に追われる日々、懸案事項が頭をよぎる。気温も低そうだ。鬱陶しい。しかしそれ以上に寒々しく感じるのは、「世界一の反日国家日本」と団長も言及されていたが、日本の現状が重くのしかかるからか……。

「今年も参加してしまった……。昨年は、大東亜戦争を日本人として戦った

台湾人の慰霊を一度は現地地で果たしたいとの一心の思いで参加してみたのだが、結果その余りにも心に響くことが多く、日本に居るときよりよほど気分が爽やかであったこと。また昨年と違う場所にも行けるのでないかとの期待、それとこちらの事務局の皆さんの対応がまた素晴らしいこと等から、二度目の参加を決意した。事務局からよく電話連絡が入る。旅が近づくと「体調を壊さないように」から事後の「体調は大丈夫ですか」まで実に細やかな気配りである。道中もこの調子だから、余談だが、TBの添乗員さんも随分助かるかな。よほどの社内教育の賜であろう。「勇将の下弱卒なし」、恐らく小菅団長の日頃の薫陶のなせるものと思われる。男の職員の電話ですら好感を持つくらいだから、これが愛嬌のある黄楷荼女史の電話であれば尚のこと。彼女からの電話もあり、オジサンは二つ返事で参加を決めてしまったが、その黄女史は皆さんご承知の通り途中で台湾に帰ってしまった。うーむ……。何とも残念、詐欺だ！(冗談)。団長も慶事ではあるが戦力ダウンを嘆かれたことだろう。ともあれ今回二年続きの参加となった。以下雑感(抄)である。

さて旅である。目的地が異なるため単純比較は出来ないが、昨年の強行軍より移動に要する時間が少なくなって、比較的楽な日程であった。工事中の保安堂も順調に進捗している様子。また昨年放火で被害を受けた飛虎將軍廟もきれいに修復されていた。飛虎將軍廟は昨年印象深かったが、今回は新たな感動があった。新しくなったリーフレットに第十三次訪問団の集合写真が使われていたのだ。有り難い、これで自分もリーフレットに記された縁起とともに歴史に名を、じゃなかった顔を残

せるというものだ。

縁起といえば今回、幸運にも、部数が少ない中で地元の安南国民小学校編製による飛虎將軍縁起を頂いた。ページを開く。嗚呼、「何ということでしょう!」、そこには語り継がれるべき飛虎將軍の縁起が小学生向けのアニメで分かりやすく説明してあるではないか。感動あらたである。小学校の教材(?推測)に日本軍及び日本軍人が堂々と登場し、しかも勇戦敢闘、御祭神として祀られるようになった経緯が書いてある。子供達に語り継ごうというその姿勢に感動と感謝の念を禁じ得ない。

東郷平八郎も乃木希典も、軍神第一号の広瀬武夫も橘周太も、はたまた木口小平も一切登場しない日本の教科書、副読本。日教組が見たら多分泡吹いて引っくり返る事必定。日本にも、否、日本にこそこのような副読本が有って然るべきと思う。大東亜戦争という聖戦に身を投じたのは他ならぬ私たちの父祖の日本人であるからだが、日本では不幸にも昭和二十年の終戦を境にその前後で意識的に歴史が断絶させられ、価値観が逆転させられている。同じ日本人なら当然なすべき事がなされず、台湾の地ではそれがなされているということである。これから導き出せることは、一つは日本人が正気じゃないということ。二つ目は、台湾人は正気を失う前の日本人の心を持っていて、日本人として共に戦ったことを決して否定的にとらえてはいないということだろう。台南市新化区の小学校には、一時期の排日の嵐から守りぬかれ今もきれいに残されている奉安殿があることからそれがよく見て取れる。アイデンティティが日本なのだ、但し昔の日本のそれ。

明治二十八年五月二十九日北白川宮能久親王麾下の近衛第一旅団が北

●ご協力ありがとうございます。

(有) 悠 悠

代表取締役 徳山 世雄

☎(092)623-2667

〒812-0851
福岡市博多区青木1-11-87

甲斐歯科クリニック

院長 甲斐 文一郎

☎(092)731-4188

〒810-0044
福岡市中央区六本松4-11-26
ビバーチエハシモビル1階

小島テナント事務所

小島 義則

☎(092)451-2995

〒812-0042
福岡市博多区豊2-4-65

部澳底に上陸してから、総督が大本營に対して全島平定を報告した十一月十八日まで約五ヶ月を要していることから、必ずしも円滑な無血領有ではなかったことが窺える。何事にも光と陰の部分がある。このことも私たちは銘肝しておく必要があると思う。

明治三十年三月十九日台湾總督府は、台湾住民に対し「台湾住民分限取扱手続」により国籍を自由に選択させた。最終期限の同年五月八日までに日本国籍を選択しないという申出者は総計約四千五百人で当時の人口二百八十万人の〇・一六％に過ぎない。千八百七十一年フランクフルト平和条約(普仏戦争)でアルザス・ロレーヌの住民で旧国籍を選択した者は一〇％にも及び、これに比べると台湾住民の定着度は桁違いに高いことがわかる。土着の住民は当然としても、十七世紀以降大陸から移り住んだと思われる住民も、化外の地として長らく放置されたせいか、あるいは満洲族清朝への反感から多くは既に清国への帰属意識はなく、この時自分の意志で日本国籍を選んだと言えるだろう。その後の教育、衛生の向上等民政に力を注いだ日本の方針、その先兵として使命に燃え、台湾住民に支持され尊敬された教師や、今回の訪問地の富安宮(嘉義県東石郷)に祀られる森川清治郎(義愛公)に代表される巡查(警察官)という主に下級官吏達の身を挺した働きがあったればこそ、今日のアイデンティティを共有した台湾と日本との強い絆が築かれたものと思う。森川清治郎の伝記(義愛公伝)には、感銘を受けた。

最終日、外交部表敬訪問時の蘇啓誠副秘書長の話の中に、「台湾では、ありのままの歴史を教えています。差別があったことも…」と率直に話をされて

いたことが非常に印象深かった。それでもなお、過日の尖閣近海で台湾漁船及び警護の台湾当局の公船と日本の巡視船が放水合戦を演じ、未だその記憶が生々しいこの時期に、軍艦旗と日章旗を先頭に列を作った一団を外交部に迎え入れてくれる台湾は、実に懐が深い。外交部内で「海ゆかば」での黙祷…、寛容さには頭が下がる。小菅団長の長年に亘る誠実さが信頼を得ているのがよく分かる瞬間だ。その陰には外交部関係者内部での並々ならぬご尽力が隠されているものと拝察する。清濁併せ飲み、我が国先達の献身とその努力を理解し、正当に評価して語り継いで下さる台湾の方々に衷心よりの感謝を表したい。

台湾教育の事始め— 芝山巖事件における 六士先生遭難

こが まこと
第四班班長 古賀 誠氏

第十四次台湾慰霊訪問団に参加して、台北市士林区の芝山公園を再訪できたこの機会に、芝山巖事件とその歴史について纏めてみたい。

明治二十八年四月、日清戦争後の下関条約によって、台湾は日本に併合された。同年六月に日本軍が台北に入城し、総督府始政式を行った。その頃、台湾初代総督樺山資紀に台湾の教育について建議して、台湾の初代学務官僚に任命されたのが伊沢修二だった。伊沢は日本では文部省学務部長心得を務め、小学校唱歌などを手掛けて「日本唱歌の父」として有名だが、その彼が台湾教育事業を志したのである。早くも明治二十八年七月十六日、伊沢

は芝山巖の恵濟宮という廟の後殿で日本語伝習所を開き、芝山巖学堂と名付けた。教務員は楫取道明、関口長太郎、桂金太郎、中島長吉、井原準之助、平井数馬の六名で、生徒六名と寝食を共にしながら教育を始めた。しかし、台湾平定戦争はまだ終わっておらず、芝山巖の周囲も治安が悪くて、土匪(ヤクザ或いはゲリラ)による首狩りなどが横行していた。そのため生徒達は「教員襲撃の噂がある」と懸念を伝えて避難を勧めた。

けれども、教員達は「我々は教育に携わる文官である。この危機の時に当たり、文力で敵に抗する事の出来ないのを知ってこれを避ければ、臣子の道を失する事になる。我らの命運は天にまかせせる他ない。全てを職務のために尽くすのみ」「寸鉄(武器)を帯びずに住民の中に入らなければ、真の教育は出来ない。若し国難に殉じる事があれば、その時こそ台湾人生徒に『日本精神』を具体的に示せる」として、命がけで台湾人生徒の教育に励んだ。

伊沢が教員募集のため日本に出張中の明治二十九年一月一日、芝山巖事件は起こった。正月のお祝いの為外出した教員六名は約百人の土匪に取り囲まれた。六名は堂々と土匪達に教育の大義を論しつつ防戦したが、全員惨殺され、着衣を剥がされ、首も切られた。中には背中を断ち割られて川中に投げ込まれた遺体もあった。恵濟宮の宿所も襲われて、彼らの所持品も奪われた。このニュースは東京にも伝わり、台湾教員募集の応募者約八百人中から約五百人の辞退者がでた。しかし、合格者四十五名からは落伍者は全く出なかった。これは明治精神の凄さと言ってよいだろう。

台湾に戻った伊沢は、遭難した教員

●ご協力ありがとうございます。

- 協 賛: 九州不動産専門学院 九栄会(九州不動産専門学院グループ同窓会) JTB九州
 ■協 力: 美祢市総合観光部 山口県日台交流協会 福岡縣護國神社
 ■後 援: 産経新聞九州総局 福岡教育連盟 福岡日華親善協会 福岡県神社庁 福岡県モラロジー協議会
 福岡県郷友連盟 福岡県海友会 福岡県中華總會 福岡県国際交流センター 日本会議福岡 教育
 現地協力: 研究会未来 日本協議会福岡県支部 西日本台湾学友会 台湾在日福岡留学生会 スタジオ日本日
 曜討論番組を支える会(申請中含む)
 台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 台南・飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 新竹・勸化堂 新竹・濟
 化宮 台北・高砂義勇隊戦没英霊紀念碑(烏来酋長文化村) 台南・烏山頭水庫(八田與一紀念館・八田
 與一紀念公園) 〈慰霊祭主催団体〉台中・台灣台日海交會 台中・台湾中日海交協會

六名の遺体を集めてお墓を作り、また学務官僚遭難之碑を建て、二十九年七月一日に慰霊祭を行った。石碑は台湾訪問中だった伊藤博文内閣総理大臣の筆による。この慰霊祭における伊沢学務部長の祭文には、「あわれ芝山の野は長に緑に、芝山の巖は千古に涉りて動かざらん。ここなる樟の一本の辺に墳を築き碑を建てて、諸君の遺蹟を後の世に語り継ぐべき標とはしぬ。あわれ英霊よ天翔り来て永くここに留まり賜い、本島の文化を導きたまえ」とある。そして、毎年二月一日に例祭が行われる事が決まった。

明治三十四年伊沢修二は台湾学務部長を辞して日本本土に帰った。そして、大正六年五月、六十七歳で脳出血で死亡後には、遺髪は遭難教員六名のお墓に合祀された。大正八年十一月には台湾教育会の手で伊沢修二の記念碑が芝山巖に建てられた。

こうして、伊沢と六名の先生の意味は「芝山巖精神」すなわち「斃れて後已む精神」として、台湾の教育者達に受け継がれていったのである。

昭和四年十二月、台湾教育創始の地として「芝山巖神社」が竣工し、教員の参詣や学校の遠足・修学旅行のコースとなった。芝山巖事件以後も台湾における学校建設は着々と進んだ(訪問が訪れた嘉義県鹽水國民小も極く初期に建てられている)。そして、多くの日本人教員が赴任し、彼らの姿と教育に賭けた情熱こそが、台湾に「日本精神」を教え、親日国家台湾の礎となった。昭和十九年の就学率はお陰で七十一%に達した。

他方、事件や風土病で犠牲になった日本人教育者は昭和八年までに三百三十名、昭和十七年までに五百二十九名に上り、芝山巖の殉職教員顕彰碑に連記された。

第二次世界大戦後、台湾に侵攻した蒋介石国民党は、芝山巖神社を散々に壊し、遭難先生六名のお墓を破壊した。また、学務官僚遭難之碑を倒し、殉職教員顕彰碑をバラバラに砕いた。

「芝山巖事件碑」が国民党により作られたが、この記載を読めば、芝山巖事件の犯人達(土匪)は「義民」とされ、「日本の同化政策の根源である奴隸化教育施設を破壊し、その教育者を殲滅す

るための英雄的行為」と記された。この状態が約半世紀も続いた。ただ、遭難教師のお墓の破壊に伴って露出していた骨壺だけは、恵済宮の真明住職が密かに仮の墓を建てて、無縁仏として祀っていた。

平成七年になって、付近の士林國民小校友会は百周年事業の一環として「六士先生之墓」を重修し、合わせて学務官僚遭難之碑を再建した。殉職教員顕彰碑も修復再建されていると言う。士林國民小は芝山巖学堂を創始と考えており、伊沢修二を創校者としている。校庭には「国民教育発祥地」の碑もある。百周年記念式には遭難教員、楫取道明(吉田松陰の甥)の孫、小田村寅二郎(国民文化研究会創始者)・小田村四郎(李登輝友の会会長)兄弟、平井数馬の遺族、平井幸治氏らが招待されたという。

現在、恵済宮や六士先生之墓を含む芝山巖一帯は芝山公園として整備され、台湾の教育のメッカとして訪れる人は後を絶たない。毎年二月一日には、学務官僚遭難之碑の前で例祭が行われと共に、全台湾の学校生徒が芝山巖に向かって黙祷を捧げるそうだ。

六士先生の歌(作者不詳)

やよや子等	励めよや
学べ子等	子供達よ
慕へ慕へ	倒れてやみし
せんせいを	
歌え子等	思へよや
進め子等	国のため
思へ思へ	遭難六士先生を

《参考文献》

- 一 篠原正巳著『芝山巖事件の真相』和鳴会(序文は小田村四郎氏)
- 二 蔡焜燦著『台湾人と日本精神、日本人よ胸を張りなさい』日本教文社

祖国に戻り十日過ぎても訪問の総括が纏まらない中、三つの事が鮮明に残っています。一つ目は、「感無量」です。行く先々で様々な心の動きがありました。特に、日本人墓地慰霊式では汗と涙がとめどなく流れました。悲でもなく辛でもない静かな涙により、喉詰まりながら国歌斉唱しました。また、済化宮で御霊牌たちに対面した際、初めて遊就館の御遺影たちに対面した時と同様の衝撃を受けました。

二つ目は、「出逢い」です。原台湾人元日本兵軍人軍属の方々や子孫の方々と交流は、とても有難く感じました。また、結団から訪問と多くの団員さんや支援者の方々にお逢いでき、とても刺激を受け、誠に光栄でした。

三つ目は、「継承」です。十四年に亘り継続されている小菅団長が仰られた、訪問の目的が心に響いています。敬意と感謝は、各人なりに感じ表し続けることでしょう。継承は、何をどのように継承するか、大問題に感じます。勿論、日華(台)親善友好慰霊訪問は深化しながら継続すべきです。更に、各地で散華された先人達が守りたかったものは何か?

私は、愛する人・愛する郷・愛する国を守ること(一身独立、一国独立)だと思います。その目的達成のため、信義を重んじる気概(武士道、大和魂、日本精神)は継承されているか? 私達はどうに継承もしくは復興していくか!

この訪問により、大いなる命題を改めて体感させて頂きました。誠にありがとうございました。感謝、感謝。

慰霊を中心とし、第一義とする。 必要な物は集まってくる

いしかわ ひでひさ
中島班 石川 秀久氏

悲でもなく辛でもない 静かな涙で、 喉詰まる国歌斉唱

あおき しげまさ
第五班班長 青木 繁政氏

昨年、日華(台)親善友好慰霊訪問団を知り、本年五十歳の節目で初訪問ができました。お世話になりました関係各位に心より感謝申し上げます。

今回の慰霊訪問団に参加させて戴いた感想は、二つあります。

ひとつは、団長が仰っておられる『慰霊を中心とし、第一義とする。必要な物は集まってくる』事と、二つ目は松俣副団長が、訪問先で良く言われていた「ご縁」ということを実感する旅行となりました。

今回の訪問団に参加させて戴こうと思った理由の一つに慰霊のことも有り

日本と台湾、生命の絆

なかむら さとし
中島 班 中村 哲氏

ましたが、一方で東日本大震災時に示していただいた台湾の方々の暖かいご支援は、何処から来るのかを探って見たいと常々思っておりまして。

昨年三月二十五日に定年退職の記念に台北を訪れ、街角で何気なく後ろを振り返った途端に『ガンバレ日本』の大きな横断幕が目に入りました。大震災から二週間足らずでかけられていた横断幕を見て本当に驚きました。その後もご承知の多額の義捐金も私にとっては衝撃的な事でした。今回、外交部を訪問の際に青木繁政団員から義捐金のお礼とその好意を無にするような事に関してお詫びの言葉があった事は、何事も形に表す事が出来ない私にとって大変救われる思いでした。

また、今回は私から図った訳ではありませんが、目に見えないもので繋がっていた事を実感致しました。これをご縁と言うのでしょうか。

私が、大学に入りたまたまクラス担任になった方が、王育徳先生で台南市のご出身でした。先生の著書より略歴をご紹介しますと、先生は、戦前に日本教育を受け(旧制台北高校、東大)、戦後台湾を占領した中国国民党の独裁政治を批判した為に、政府に睨まれ千九百四十九年に日本に亡命、その後日本で大学教授として生活するかたわら、『台湾独立運動』『台湾語の研究』『台湾人元日本兵士の補償問題』等で力を注がれた様です。一方で、学者として台湾の歴史や文学・言語に関する著作を多数残しておられましたが、故郷台湾に帰ることなく千九百八十五年到他界されました。

以上の事は、当時は恥ずかしながら私は殆んど存じ上げず、クラス担任と第二外国語の先生としかとらえておりませんでした。

王先生の中国語の授業は、厳しいことで有名でした。授業中も大学の授業では珍しく私語など一切なく、緊張感が漂っていた事を今でも覚えております。時あたかも学生運動(浅間山荘事件など)の激しい時で、構内では内ゲバ(死語?)や活動家による授業占拠などもよく行なわれていました。先生は活動家に授業の邪魔をさせるはずも無く、勿論活動家も先生には近寄らず、授業は妨害される事無く淡々と行なわれました。

今も記憶に残っている言葉は、『棒切れを振り回して騒いでも、政治は変わりませんよ』と良く仰ってました。

私は、その時の深い意味を知る事も無く先生が台湾独立運動に東奔西走されていた事も露知らず、後年になりその仰っていた意味が少し分かった様な気が致しました。

それから台湾語の事も使用禁止令が出され行く末を案じて台湾語の研究で博士号を取られた様です。

今回偶然にも台南市で一泊する事になり、先生の母校であり戦後一時教壇に立たれた台南一中がホテルの近くだと分かり、訪問団の規則をチョット破ってしまいましたが、早朝に台南一中まで出かけ、日本に亡命する為に慌しく授業を抜け出していかれた校舎を感慨深く見る事が出来ました。

先生は亡命生活を助けてくれた事も有り、日本に大変恩義を感じておられました。また、小学校時代(末廣公学校)に日本人教師によって徹底的に鍛えられた様で(日本精神)、お陰で公学校から台南一中に進む事が出来たと仰っていた様です。

今回、鹽水小学校を訪問した折に、時間割に『本土』と記してあり、これも青木団員が質問され、『台湾語』の授業ですと校長先生がお答えになり、王先生が言った『台湾語が減びる時は、民族が減びる』との考えで台湾語を研究された事を思い出しました。(国民党に睨まれたひとつが、台湾語を使つての演劇活動だった様です)

濟化宮で黄文雄先生に王先生の事をお話しましたら台湾独立運動の事を良く覚えておられ、言語に付いて随分と議論を戦わせた仲だと仰っておられました。

改めて個人的にも台湾と深く繋がっていた事を実感いたしました。それは、また三万三千余柱の原台湾人元日本兵軍人軍属のご英霊が、今もお日本と台湾の絆を深く守って戴いていると感じました。

最後になりましたが、今回初めての参加でしたが、楽しくいつまでも心に残る慰霊訪問の旅が出来た事をいろんな所で心遣い戴いた団長初め役員の方々、また団員の皆さまには心より御礼申し上げます。

今年も日華(台)親善友好慰霊訪問団の一員として訪台することが出来た。今回で四年連続の参加であり、台湾一人旅を続けている者としては、とすればマンネリ化に陥っている自分の気持ちを見抜かれてか神奈川の岩本宣善先輩から「宝覺寺の英霊は毎年同じ気持ちで待っている。靖國神社と同じと考えよ」との教えを受けた。毎年元気に台湾に行くことが出来るのは嬉しい限りで、この為に足腰を鍛え健康に気をつけて来たとも言える。待ってくださっている人がいる。

日本人は台湾が世界一の親日国であることは承知している。台湾人の親日を戦後台湾に逃げてきた中国国民党(外省人)が悪いことをした領台時代の日本人は良いことをした。だから親日と単純に考えてはいけない。それは表面的なものではなく、日本が明治以来育んできた民主主義の文化が染込んでいるからである。日台が民主主義という共通の部分で一致しているのであって、一党独裁の大陸を受け入れることが出来ないのである。日中国交を開始して以来、台湾を大陸の国に押し付けてきた日本政府。台湾は国家としての威厳を保持してきた立派な独立国家である。にもかかわらず、日本政府、行政はいまでこそ改善されてはいるが、パスポートの国籍一つとつても台中一体化を画策してきた。このことは、日本の安全保障上にとつても大問題である。

馬英九は香港の活動家の寄港を拒否したことで大陸から弱腰と批判されるや一転して台湾漁船団の尖閣海域への出港を認めたらうえ英雄扱いして来た。馬英九の裏に大陸の陰が見え隠れする。そもそも国民党は台湾国民党ではなく大陸で結成された中国国民党であることを忘れてはならない。漁民たちへ金をばら撒き、漁船の燃料代を支援した旺旺集團の会長は大陸で大儲けして二千八年に大陸の後押しを受け、台湾の新聞社、テレビ局を買収した、中国共産党のコントロール下にある親中派の親玉の一人である。

明治二十八年、台湾を領有した日本

は欧米のように搾取を目的とした植民地としてみるべきではないと考え、政財界ともに内地延長主義を取ってきた。

『新高の山のふもと民草の茂りまさると聞くぞうれしき』御製

明治天皇の御心も「一視同仁」とのお考えであった。『福澤諭吉は、台湾経営について「時事新報」に多くの貴重な主張を残している。ここには、彼の思想と言論が凝縮されており、彼の持っていた台湾観と台湾論が明らかに読み取れる。福澤諭吉の考える台湾統治、経営の方法は日本本土の延長としての同化主義であった。』(黄文雄先生著書「台湾は日本人がつくった」参照)

こうしたことから、台湾人が日本人と共に民主主義を学び、自由、平等、博愛の理念を持って国を維持していることが親日の所以であることは間違いない。日台の心の交流、生命の絆が各地で見られることがこれを物語っているのではないだろうか。

今回はキャンセルもありB班を入れて総員三十八名の参加である。桃園空港到着時、雨であったが、バスに乗り松山空港で東京組と合流してからは天気良好、台北駅から高鉄で高雄へ。今回はいたって東京組が元気がよく、日高顧問の千尋会から「なでしこアクション」のメンバー二名が参加。森敬恵先生が各地の慰霊祭(式)で「海ゆかば」を独唱して、厳粛な雰囲気涙するものが多くいた。また日高氏の名代として参加の城所尚代女史は教育勅語を暗誦するなどとても有意義な旅で、一同大満足で帰国したことであろう。

台北で迎える黄楷 女史と合流し、高雄へ。新妻の香りプンプンで溢れんばかりの笑顔に小菅団長の顔もほころんでいたように感じられたのは私だけではあるまい。黄支部長の歓迎会はやはり盛り上がり、黄支部長の弟さんと小菅団長が義兄弟の契りを結ばれたことが披露された。黄女史の嫁ぎ先の東龍宮にはお婿さんが待っており、ここでも大歓迎だ。高雄保安堂は建物はずべて完成していたが周辺の整備はこれからだ。来年夏に御神体の魂を入れ替え、新保安堂に移るとの事、楽しみである。

二十三日は、台南武徳殿(現在の武

道館)や奉安殿(両陛下の御眞影や教育勅語を安置していた)を見学し、飛虎將軍廟を参拝した。昨年放火され、修復中であつたが、すっかり綺麗になっており一同感激。犯人はすでに検挙されているが精神異常者のようである。そして台南市政府表敬訪問では頼清徳市長自ら対応された。市長の話では東日本大震災直後に姉妹都市である仙台に一億円以上の義捐金を送られたこと、飛虎將軍のことを教育教材して採用していること、台南の大学は日本語学科を四箇所開設していること、医者でもある市長は台湾の教育は日本のおかげである。とまで断言され、親日家振りを見せてくれた。

二十四日は鹽水小学校であつたが、生憎の土曜日で子供たちには会えず、校長先生も退職され、若い男性校長に代わっていた。午後は一昨年訪れた嘉義の富安宮に行き村人あげての歓迎を受けた。

二十五日は本番の宝覺寺慰霊祭だ。中島公明氏はじめ衛兵隊のラッパの音色が響く中、たくさんの観光客が参拝してくれたことは大きな収穫であつた。二十五日夜の台日文化経済協会の歓迎会で聞いた話によると、支那の習近平体制について台湾人の考えは、「チンピラ体制はそんなに長くはない。華僑の力が強く影響してくるので大陸の経済は悪化してきている。台湾の一般国民はチンピラに関心がない。馬は大陸一辺倒であるが経済界は考えを変えてきている。台湾の失業率は4.8%に落ち込んできており、国民の不満が馬に向けられている。馬は親中が本心で統一を考えている。国民党は日本の放棄した資産を天文学的に持っており、それに群がる馬鹿国民が馬鹿馬を選んだ。国民党は汚職を組織でやっており、反対派には冤罪をつくり殺してきている。チンピラはこれから益々日台に対し、強気に出てくる。何よりも民進党が対支那政策を変換し、融和的政策を打ち出してきていることが危険だ。国民もこれらに気づき始めており、二千十四年の立法院選挙で台湾は大きく変わる。元台南県長の蘇煥智氏も立候補する。台湾国民の多くは、尖閣は日本の領土と思っている。我々経済人は商売上与党についているがいずれはチンピラの

やり方では撤退するかもしれない。」等とかなり具体的なお話を聞くことが出来た。政府系の団体の中から政府批判が出てくるのが興味深く大変なことだと感じるとともに、台湾が民主主義国家として成熟している証拠である。

更に二十五日は、思いがけず黄文雄先生と濟化宮で嬉しい合流。永田さんの奥様の吟じる「九段の桜」が朗々と響き、さぞかし英霊も喜ばれたことだろう。参拝後はいつものようにピーナツ粉のお餅をこ馳走になり、バスで高鉄新竹站へ。新幹線で台北へ。その間、先生と隣席になることが出来、絶好のチャンスと思い、普段、講演会ではなかなか聞けない質問をしてみた。先生は嫌な顔ひとつされず私の質問に丁寧に答えていただき感激だ。先生も「大陸の習近平体制はそんなに長くはない。台湾は十四年の立法院選挙で大きく変わる。民進党が心配だ。」などと言われていた。

二十六日は、六士先生の墓参、林森公園、昼食会とご一緒したが外交部訪問はさすが反国民党の闘士だけあり、バスを降りようとする私に耳打ちし「僕はバスで待機するから、国民党の嘘に騙されないようにしっかり話を聞いてきなさい」と言って、一歩もバスを降りなかった。金美齡先生といい、黄文雄先生といい確固たる己の信念をお持ちだなと感じた。

最終日は朝から生憎の雨で、台湾では珍しく少し肌寒く感じたが、明石総督の鳥居のある林森公園では、移設に尽力された台北市議の陳玉梅女史が雨の中、待っていてくれお話を聞くことが出来たのも収穫である。

今回もまた新しい出会いと発見があり、とても有意義な慰霊の旅であつたことは間違いない。最後に小菅団長はじめスタッフの皆さんに御礼申し上げます。ありがとうございました。

日台の深いつながりには
重くて大切な過去がある

きりの たかのり
石原班 桐野 隆徳氏

訪問団での訪台は初めてでしたが、大変貴重で得難い経験でした。先ずは団長ご夫妻、企画、サポートしていただ

きましたスタッフの方々、一緒に同行された諸先輩方に深くお礼を述べたいと思います。ありがとうございました。皆様を支えていただき、いろいろとご教示いただきましたおかげで新しく知り得たことも少なくなかった充実の五日間でした。

さて、個人旅行での訪台は過去十数回あり、親日家が多いことも知ってはいましたが、今回訪問した各所での歓迎ぶりには、日本統治時代からの日本と台湾の親密さが時を経て伝えられていると改めて感じられ、新たな感激を呼びました。親しい友人を迎えるかのように接していただくと、初めてお会いする方でも何故か懐かしさを感じてしまうこともしばしばありました。しかしながら私の勉強不足から歴史上の背景や知識を欠いており十分に消化しきれないことも少なからずありました。それでも各所で統治時代に台湾で生きた日本人の思いや情熱、信念、愛情、希望などを教えていただき、同時にそれらを大切にされている台湾人の優しさに触れ、涙腺が緩む場面も多かった数日間でした。

我々日本人が戦前もっていた社会規範、礼儀、道徳、信義、大和魂などは、本来であれば様々な文脈を通じて、今日に至るまで継承されていなければならぬと思います。しかし、所々に断絶が見られます。その断絶を埋め合わせる有形無形のもの台湾で大切にされ、護られて次の世代に継承されていることは感動でもあり、台湾人への感謝の念を抱かずにはいられませんでした。もちろん台湾は文化が異なり戦後六十年間に大きな社会変動を経ているわけですから、日本が失ったものがそのまま台湾にあるという訳ではないのですが、それでも何故これ程まで日本人が必要としているものが大切にされているのか、と思わずにはいられませんでした。

また、初めて参加しました原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭では日本人と台湾人との深い絆を思いました。日本人として散華された三万三千余柱の命は、その家族にとっても恋人、友人にとっても掛替えのない命だったはず。それだけに我々の世代は台湾人以上に過去を知って、継承を受けて、ま

た次の世代へと責任を持って引き継いでいかなければならないのではないかと感じました。

深いつながりには重くて大切な過去があるものです。日台の絆には、共に血と汗を流した兄弟感・一体感が柱としてあります。我々日本人にはそのことをもっと知って深く感じなければならぬ責任があり、その責任を果たすことが先の大戦で亡くなられた原台湾人元日本兵の方々への慰霊へと繋がるのではないかと思います。

まだまだ知らないこと、理解が届かないことが多いと実感させられる今回の訪問でしたが、日が経つにつれ充実感と心地よさが思い出される旅でした。

はるか台湾で輝く 『警察魂』—義愛公 「森川清治郎先輩に捧ぐ」

ふじすえ こういちろう
古賀班 藤末 耕一郎 氏

狂った日本・急増する警察不祥事

『夫婦殺害放火容疑、富山県警本部補を逮捕』世界に誇った経済大国日本も、もはや沈没状況、追い討ちをかける如く、取り締まる側の警察官の犯罪、不祥事が急増。新聞一面を飾る。警察官の犯罪その他、受理を渋り、ストーカー殺人、尼崎連続殺人の中心人物を留置施設で自殺、相次ぐ不祥事、緊張感薄れた警察組織……

台湾で知った『警察魂』

今回の『日華(台)親善友好慰霊訪問の旅』で私は、同じ警察官として、打ち震える感動を覚えた。嘉義の何の変哲もない村、富安宮に分不相応と言うか、ゆうに三億円もかかりそうな立派な寺院が建立されようとしている。

史跡で見、村人から事実を聞いて、さらに驚くと共に感動感激の涙があふれ出た。日本の警察官 森川清治郎巡査を祀る寺院だと言う。台湾の人々のやさしき心、日本の警察官、我々の先輩警察官の心意気、こんな警察官がいたことに誇りと感謝。

明治二十三年(千八百九十五年)巡査 森川清治郎は当地に警察官として赴任。各地で強盗、窃盗横行。さらにマ

ラリア・コレラなど伝染病蔓延の政情不安定な土地で、森川巡査は、本来の治安維持の任務はもちろん、塾を開き、自費で教師を雇って教育の普及、排水溝を掘るなど環境衛生啓発、農地の改良や農業技能の改善など村人と泥まみれになって働く、貧乏な生活、飢餓の渦巻きの中で年を越さねばならぬ村人に、餅を分け与えて共に新年の慶びを分かち合う慈愛に満ちた森川巡査。村民全体の愛と信頼と尊敬を得ていった。しかし思わぬ不幸がやってくる。台湾政府からの税金納付である。森川巡査は、千切り芋や葉を三食に生きる貧しい村民のために、税賦減免の嘆願をした。当時の警察官は税金の督促も職務であり、嘆願は、村民の納税阻止を先導している疑いをかけられ、戒告処分、村民と苦楽を共に、忠実な職務に徹し、責任感あふれる森川巡査は自殺を決意、村田銃が朝の静寂に響いた……森川巡査の屍体を抱きしめ声を上げて慟哭する村民……。

初めての台湾慰霊の旅に参加して、義愛公森川清治郎自尽して百十余年の、生々流転の世にも森川清治郎への報恩の証としての寺院建立、そして台湾人の心の中に生き続ける森川清治郎先輩を拝し、心さわやかに台湾を後にした。

森先生の「海ゆかば」

しんたに あきら
青木班 新谷 章 氏

森敬恵先生の「海ゆかば」を中華民國で拝聴した。同國に於ける御英霊鎮魂と顕彰の旅の行く先々で御霊に「海ゆかば」を森先生は捧げられた。異郷で、南の海で、眠って居られる御英霊に御供養申し上げる。森先生は法要されたが、自分は何も出来ず唯、頭(こうべ)を垂れて居るしか無かった。

森先生は御疲れの儘、旅行に突入。普段と違う食事と水に馴染まず体調を崩され、とても歌える状態で無いのでは、と御察し申し上げた。さりとて、替わってあげましょう、と言うわけには行かない。「私、具合が悪いから止めます」が通らない土壇場だった。その点、会社は合理的。担当者が欠勤しても代打を充て、仕事に差障り無い様作って在

る。当人で無いと困る場面は通常左程無い。職場には代わりの人は幾らでも居るのだ。

儀礼歌。将官に対する敬礼に用いた(防人[さきもり]の歌『雄叫』偕行社刊より)、とされる「海ゆかば」を一節(ひとふし)歌い始めると森先生は憑依の如く「『海ゆかば』を歌わせて戴きます。聞こえますかしら」と御訊ねになられて居らっしゃるのでは、と私には思えた。

愛知県幡豆郡三ヶ根山の殉国七士墓前祭で森先生が「海ゆかば」を御歌いになられた時も私は泣いた。御英霊に何等(なんら)報いず、今迄何をして来たのか、と悔恨し、失われた時の重さに衝撃を受けたのだ。歌が上手な人は世の中多い。然し、幾ら歌を巧く歌えても、歌う技量が優れて居ても、心を打つ、魂を揺さぶらなければ何にもならない。その様に歌える人は数少ないと思う。美空ひばりさんの「悲しい酒」と「みだれ髪」も身につまされる音楽だ。ひばりちゃん(私達はそう呼んでいた)と森先生を並記したので、御二方から叱られそうだが、敬愛の念を込め敢えて書かせて貰った。

何とかして日本と日本人を 守らなければならない

もり としえ
青木班 森 敬恵 氏

私は、今回初めて台湾慰霊訪問団に参加させてもらいました。この台湾慰霊訪問を十四年間毎年、同じ日程で継続されて来られました小菅先生の偉業に先ず驚きました。小菅先生の固く強い信念が十四年という年月の中で、大きく実を結びつつあることに心より感謝と尊敬の念を抱きました。総勢四十一名もの大所帯で台湾中に点在する慰霊廟等を回る事は、決して楽な旅ではないのです。より多くの慰霊をしたいという思いになればなるほどスケジュールはきつくなるのですが、今回ご高齢の方が多かったにも拘らず、四泊五日の旅程中、一人の怪我人もなく、無事帰国の途につけた事は、ひとえに御英霊のお守りの賜物と感じました。

また、私達を迎えて下さる台湾の皆さんの歓迎ぶりにも感動しました。日本

では御英霊に対する慰霊の思いを公にすると、中国や韓国が大騒ぎをするのですが、一体中国や韓国は何様なのですか？ 我が国の御英霊を大切にする事に対して、中国や韓国が騒ぐなど、日本人の私達は決して許してはいけません。日本国民はそれに対して非常に強く怒りを出して、報復処置を取るべきです。それなのに、外務省や経済界は売国奴さながら、中国の言いなりになるのですから、日本が此処まで貶められたのです。日本国民はこころざしという時に主張しなければなりません。我慢をせず、怒りを外務省や経済界に突きつけるべきです。

話を戻しまして、台湾では田舎ほど日本の時代のもを大切にしておられました。奉安殿がそのまま残っている小学校があったり、二宮尊徳の姿が壁に貼ってあったりして、日本の心を台湾の人々が大切なものとして守っておられるのです。

日本人は戦後、その精神力を抜き取られてしまいました。アメリカが日本の精神力剥奪の為に作ったのは、日教組という先生の組合でした。共産主義の誤った思想が、日本の教育現場で徹底教育されました。個人の自由と権利の主張に明け暮れ、国家意識を抜き取る作戦でした。家族を解体させ、人々をバラバラにして力を持たせなくしたのです。

離婚を推奨し、女性の権利、子供の権利を必要以上に煽りたて、子供の健全な発達を損なわせる事が、日本の国力低下につながるから、そういう作戦で男女共同参画等とまことしやかに精神剥奪が侵攻し、それは、すっかり日本中に染みつき、子供から大人に到るまで、骨抜きにされた感があります。

個人の自由を！ 女性に権利を！ 子供に権利を！ 憲法九条を守って平和を！

などと声高に叫んでいる人は、余りに勉強不足で、宇宙大自然の摂理を御存じない様に見えます。左翼の考え方は一見美しく見えたり、新しく感じたりさせますが、虚構によるでたらめの主張ですから、その背景には真理も宇宙の摂理もない空虚な出まかせでしかないのです。こういう左翼的なバランス感覚のない考えで生きている人は、この先、生

涯苦しむ結果が待っている事に気付かないでいるのです。

実際に、ソビエト連邦が長い間、共産主義国家を築こうとしましたが、大失敗しています。ソビエトにあったのは残酷な死刑、リンチ、投獄、貧困、圧政、だけでした。一部の支配者だけが富を保有して、大半の国民は長く苦しみ続けた結果、あのソビエトは崩壊したのです。

旧ソビエトの人は「我々が長年やってきて失敗してきた事が明らかに成っているものを、どうして日本人は今それをやろうとしているのか？？」と笑っていたそうです。

アメリカも中国も韓国も北朝鮮もロシアも、決して日本人が何時も相手の事を考えるような事なんかしません。全く考えもしません。彼らは、如何に日本人を騙して日本の骨の髄まで食い尽くそうかと四六時中作戦を練っているのです。その作戦が大いに成功して、この日本の破壊が進攻したのが、この現状なのです。

このまま日本人が黙っていたら、本当に日本は無くなってしまふことでしょう。世界中を探しても日本ほど素晴らしい国はないのです。日本を、日本の精神を、日本民族を、私達国民がこの手で守る戦いをするべきではないでしょうか？

日本という国柄はアインシュタイン博士が「このように美しい精神をもった国を神が作っておいしてくれたことに感謝する」と讃えられたのです。日本人は宇宙の摂理を持ち、バランス感覚を持ち、すぐれた子供教育をし、高い技術力を誇り、人々が手をつなぎ、自然とともに生き、そして何より万世一系の美しい流れをもつ世界一優秀な国民です。何とかして日本と日本人を守らなければならないと、今回の旅で感じました。

「海ゆかば」(鎮魂歌)が 外交部に響く

なかやま しげる
安河内班 中山 茂氏

私にとって、日華(台)親善友好慰霊訪問は三回目で、今回は二泊三日の旅でした。その中で、特に感銘深く脳裏に焼き付いたのは、見出しの出来事です。

十一月二十六日、芝山巖神社での

六士先生の慰霊式は、天も御霊に感応するかのように、ひとしきり雨の降る中でしめやかに斉行されたのでした。私には、降る雨は六士先生方の感涙ではないかと思われた次第です。私たちは芝山巖を降りて後、林森公園を経て中華民国外交部を表敬訪問しました。

帰朝報告にもあるように、外交部では立派な応接室に案内され、蘇啓誠副秘書長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶等があった後、蘇啓誠副秘書長から歌を所望される成り行きとなりました。これに応じて、ソプラノ歌手の森敬恵さんが美しい声で「海ゆかば」を独唱され、団員一同は起立して黙祷したのであります。

この厳肅な雰囲気の中、外交部応接室は、大東亜戦争で英霊となられた元台湾人元日本兵軍人軍属、台湾でお亡くなりになった日本人の慰霊の場に変わった、と私には思われました。このことにより、宝覺寺に祀られた御霊は、中華民國の公的機関・外交部の中で顕彰され鎮められたと理解しますと、この度の出来事は、慰霊訪問の歴史に残る記念すべき出来事であったと思います。また、その場に居合わせた外交部の方々、訪問団・団員の記憶に永く残ることであろうと思われます。

末筆になりましたが、この旅で色々な方に一期一会の出会いをいただき、また、志を同じくする人との語らいは幸せなひと時でございました。誠に有り難うございました。心より感謝申し上げます。

不思議な糸で 引き寄せられる台湾

どうばた せいこ
安河内班 堂端 聖子氏

お恩師である安河内さんから訪問団の話は伺っていたものの、一般参加ができるとは思ってもおりませんでした。ひよんな事から参加の運びとなりましたが、それからというもの台湾に関する事柄を次々に見聞きするようになり、「いったい、台湾って何・・・？」何か不思議な糸で引き寄せられるようなとても不思議な感覚を覚えました。三日間の滞在で、私は日本人としての誇りと幸せを、そして台湾の方々のすばらしさを肌

で感じて帰ってまいりました。

印象に残ったことはたくさんあり、それを挙げればきりがありませんが、その中でも、個人的に大変うれしかった事は、合流組のみで台中公園を訪れた時の事です。入り口に警官が立っておられたのですが、皆さんそこを素通りされていたので、私達も同様に通り過ぎようとしたその時、若い警官に呼び止められました。尖閣の件もあるものですから、通訳の呉さんと警官の表情を窺いながら、私の心臓はバクバクです。しかし、呉さんの口から発せられた言葉は私の心配とは全く裏腹な答えだったのです。「和服のあなたは一目で日本人とわかります・・・」

そして、にこやかに握手して下さったのでした。着物に携わる者としてこんなにうれしいことはございません。台湾はまだ暑いと聞いておりましたので、着物にするかどうか迷っておりましたが、事前壮行会の帰り際、奥様が「ぜひ着物で参加してください、みなさんが喜ばれるので。」とおっしゃって下さいました。「年配の参加者が多いからかな・・・」(すみません!)くらいの軽い考えの私でしたが、宝覺寺の慰霊碑の前に立った時、その意味にやっと気付いたのでした。“みなさん”とは英霊の方々だったのです。日本のため、私達のために命をかけて下さった方々の少しでものお慰めになったでしょうか・・・だとしたら、とてもうれしいです。また、普段ならお会いすることのない方々との出会いも宝となりました。

最後に、たった二人からこの慰霊団を立ち上げられました小菅先生はじめ、支えてこられた奥様、諸先輩方に敬意を表しますとともに皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

御英霊の命が 生かされるように

きよせ たけこ
安河内班 清瀬 武子氏

私は台湾を通して日本の事を知りたい思いで、第十四次日華(台)親善友好慰霊訪問団に参加させていただきまし

た。

私は日本が台湾を五十年間統治していた事も知りませんでした。また、小学校六年生の時は台湾出身の先生でした。今、生きておられたら九十歳前後だと思います。もちろん、日本語も立居振舞も何の違和感もありませんでした。

ある時、先生が紙を配って、これに意地の悪い人を書くようにクラス全員に指示されました。私は、友達がある子に いじめられていたので、その子の名前を書きました。家庭訪問の時、先生が親に言われたみたいで、教室で私に「これからやさしくするね」と言われた事を思い出します。

そして台湾に着きました。「ここが日本統治時代の台湾!」

明治天皇もここにこられて、インフラが整い、庶民の生活が潤う事を慶ばれていたんだなあと思いました。私達日本人は、天皇家のお姿を通し、人としてお育て戴いていると思いました。

十一月二十五日、宝覺寺にお参りに行きました。日本人を代表してお参りさせていただきありがとうございます。また、現地の人達が今も日本人墓地进行を綺麗にお世話されていて感謝でいっぱい。そして昔の日本人がすばらしかったんだろうと思いました。

そして、済化宮(台湾の靖國神社)にお参りさせていただきました。ご位牌も亡くなられた数だけあり、それはそれは大変な数、本当にありがとうございます。ご苦労さまでした。

この方達の命が生かされるように、日本人としてどう生きていくか、常に頭において生きていかなくてはと思います。



どなたでもご参加できます！

第15次 台湾慰霊訪問の旅 参加者募集のお知らせ

- 目的 ①大東亜戦争で散華された台湾同胞3万3千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列（台中・宝覚寺）
②台湾同胞との家族交流・兄弟交流、ショッピング
- 参加資格 日本国籍を有する日本人であること（国籍、民族、人種が異なる場合はご相談下さい）
- 訪問日 Aプラン 平成25年11月22日（金）～26日（火）までの4泊5日間
Bプラン 平成25年11月24日（日）～26日（火）までの2泊3日間
- 旅行代金 お1人様 145,000円（※Bプラン 105,000円）
※東京出発の場合や他の空港から出発の場合には差額が発生しますのでご了承下さい。
※参加費は、旅行費用、現地対策費、祭礼交流費用、記録費用によって構成されています。
旅行費用／旅費・食費・宿泊費他、現地対策費／第15次慰霊訪問事業に関わる通信費、贈答品手土産他、祭礼交流費／慰霊祭主催団体への玉串料、慰霊地あてのご芳志、歓迎会主催団体への会費（謝礼）、記録費用／記念アルバム、記念DVD、記念報告集（ライセンスメイト）他
※慰霊や交流のためのお線香や手土産等は事務局で準備します。
《ご注意》この旅行は 海の彼方のニッポンを訪ねて行う慰霊と交流の旅 です。一般のグルメ旅行や趣味の旅行とは違うことを予めご承知おき下さいますようお願い申し上げます。
- 募集人員 30名
- 食事条件 朝4回、昼4回、夕4回付（※Bプラン 朝2回、昼2回、夕2回付）
- 利用ホテル 三徳大飯店、華王大飯店、通豪大飯店 等の有名ホテル（予定）
- 申込締切日 平成25年6月28日（金）
- 訪問先 台湾 ※台湾は世界一の親日国です。

添乗員が
福岡空港より
同行します

【第15次 台湾慰霊訪問の旅 予定訪問先】

- 1日目** 11月22日 ①保安堂（慰霊式）～②交歓会（黄明山・葉美麗ご夫妻）／高雄泊
- 2日目** 11月23日 ③東龍宮（慰霊式）～④新化國民小學御眞影奉安殿～⑤台南武徳殿
⑥飛虎將軍廟（慰霊式）～⑦台南市政府表敬訪問／台南泊
- 3日目** 11月24日 ⑧鹽水國民小學～⑨貞愛親王殿下登陸記念碑（献花式・ご宿泊地「八角樓」含む）
～⑩富安宮（慰霊式）～⑪交歓会（台湾台日海交會）／台中泊
- 4日目** 11月25日 ⑫日本人墓地（慰霊式）⇒宝覚寺（慰霊祭）～⑬孔子廟～⑭交歓会（台湾中日海交協会）
～⑮南天山濟化宮（慰霊式）～⑯交歓会（台日文化經濟協会）／台北泊
- 5日目** 11月26日 ⑰芝山公園「六士先生墓・学務官僚遭難之碑」（慰霊式）～⑱中華民國外交部表敬訪問
～⑲林森公園～⑳懇親会（蔡焜燦先生・黄文雄先生）

※但し、スケジュールは第14次の訪問先です。今次の訪問先については現在調整中です。先方の都合や飛行機の発着時間、交通機関等の都合により変更になることもございますので予めご了承下さい。

- 贈呈 ①「日華（台）親善友好慰霊訪問団」団員名刺（1セット100枚）
※両国旗がデザインされた素晴らしいものです。訪問先での交流にご活用下さい。
- ②慰霊訪問の旅 記念アルバム ③慰霊訪問の旅 記念DVD

知られざる「神蹟の遺跡」

原新化尋常小學校御眞影奉安殿と教育勅語

台南市新化區東榮里和平街の新化國民小學にある御眞影奉安殿は、台湾でも僅かに現存する奉安殿でのひとつである。漆の扉には鳳凰の蒔絵がほどこされ、格調高いものであり、保存状態も非常に良い。

奉安殿とは、天皇皇后両陛下の写真(御眞影)と教育勅語を納めていた建物である。御眞影の下賜が始まった時期は、教育勅語が制定された後の明治末期から大正にかけてであり、奉安殿の成立時期もその頃と推測される。四大節(紀元節、天長節、明治節、元旦・四方節)祝賀の式典では、全校生徒に向けて校長が教育勅語を厳粛に読み上げ、その写しは御眞影とともに奉安殿に納められて、丁重に扱われた。

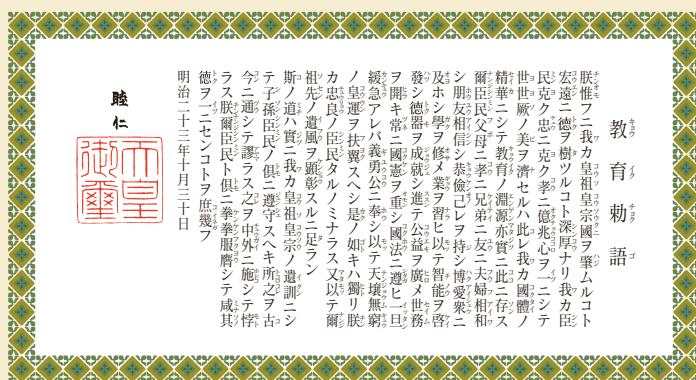
当初は講堂や職員室・校長室内部に奉安所が設けられていたが、校舍火災や地震などによる校舍倒壊の際などに御眞影が危険に晒される可能性が高く、実際に関東大震災や空襲、校舍火災の際に御眞影を守ろうとして殉職された校長の話が美談として残っている。このため、内部の奉安所は金庫型に改められ、また独立した「奉安殿」の建築が進められた。校舍一体型は旧

制中学校などに多く、独立型は小学校に多く見られた(小学校の奉安殿建築は昭和10年頃に活発化)。

わが国では明治5年に学制が發布され、教育の普及が始まったが、それは同時に当時の先覚者によって欧米の思想や学術が次々と翻訳輸入されることでもあった。海外の事情の把握や文明水準の向上には多大な貢献がある一方、欧化主義が流行し、国民固有の精神が揺らぎ、伝統的な美風が崩れていった。明治19年に東京帝國大学を行幸された明治天皇も、最高の学府において人倫道德の教育が不十分であることを憂慮され、紀元2550年にあたる明治23年、国民精神の帰趨すべきところを「教育ニ關スル勅語」

としてお示しになられた。

教育勅語は、明治天皇が国民に語りかける形式をとり、歴代天皇が国家と道德を確立したと語り起こし、国民の忠孝心が「国体の精華」であり「教育の淵源」であると規定する。続いて孝行、友愛、夫婦の和、朋友の信、謙遜、博愛、修業習学、知能啓発、徳器成就、公益世務、遵法、義勇等の12の徳目(道德)が明記され、これを守るのが国民の伝統であるとしている。以上を歴代天皇の遺した教えと位置づけ、国民とともに明治天皇自らこれを守るために努力したいと誓って締め括る。わが国の伝統的な道德観を天皇を介する形でまとめたのが教育勅語である。



保存されている奉安殿



鳳凰の蒔絵もあざやかな奉安殿内部



中華民國外交部・ 台日文化經濟協會・ 台南市政府(市役所)

表敬訪問

平成24年11月23日(金)、第13次の台中市政府の表敬訪問に続いて、今次は台南市政府を表敬訪問しました。通されたのは広くて立派な応接室で、賴清徳市長自らが会って下さいました。賴市長は、お医者さんの出身の中々の美男子で、多くの女性票を獲得して

当選されたそうです。同時通訳を交えての市長の歓迎の挨拶に続いて、小菅団長が答礼の挨拶をしました。その中で「次の市長選挙の時には賴さんにぜひ投票したいと思っていますが、あいにく選挙権がありません。」と述べて笑いを誘い、会話は終始和やかに進みま

した。最後に賴市長は団員全員と名刺交換をされて、一人ひとりに記念品を手渡され、会見を終わりました。会見後は市庁舎内の台南市と世界の姉妹都市の展示コーナーを見学し、台南市政府を後にしました。



挨拶する蘇啓誠亞東關係協会副秘書長



台日文化經濟協會(黃天麟會長)の歓迎夕食会



賴清德市長を囲んでの記念撮影(台南市政府)

11月25日(日)、台湾の靖國神社である濟化宮を後にした一行は、新竹駅から新幹線で台北へと向かいました。例年はバスで移動していましたが、いつも台北市内の渋滞に巻き込まれて時間が読めないこともあり、今回は、新幹線での移動となりました。新竹駅を18時28分に出発した列車は定刻19時には台北駅に到着し、予定通りに台日文化經濟協會主催の歓迎夕食会会場に着くことができました。

会場の海霸王では黄天麟会長以下役員の方々が既に待っておられ、一年振りの再会を喜び合いました。黄会長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶の後、永石辰郎名誉顧問の乾杯で開宴となり、台

北市内でも有名な海鮮料理に舌鼓を打ちました。今年はいにくの日曜日でしたが私どもの行程に合わせて歓迎会を催していただいたことに心から感謝すると共に、今後益々友好の絆を強固なものにしてゆかねばとの思いを新たにしました。

訪問最終日はあいにくの雨模様でしたが、芝山公園を後にした一行は、中華民國外交部を表敬訪問しました。広いレセプションルームで接遇されたのは、去年の台日文化經濟協會の歓迎會でお会いした、蘇啓誠亞東關係協會副秘書長でした。流暢な日本語で日台両国の現状や今後の展望を含め挨拶されたのに続いて、小菅団長が団員

一人が日本国民三百万人を代表して訪問しており、日本政府が台湾に礼を尽くさないなら私たちがやると強い決意を答礼の挨拶で述べました。そして今回、小菅団長が団員の一部を紹介する中で、予期せぬハプニングが起きました。小菅団長が、森敬恵先生が歌手であることを披露すると、蘇副秘書長が「一曲どうですか」と勧められました。そこで「海ゆかば」を歌うことになり、森先生の独唱に合わせて、団員一同起立して黙祷しました。恐らく外交部で「海ゆかば」を歌い、黙祷するのはこれが最初で最後だろうと思います。

約1時間の会見を終え、蘇副秘書長を交えて記念撮影をした一行は、外交部を後にしました。

第14次台湾親善友好慰霊訪問の旅

結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会

平成24年度「第14次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」の結団式・壮行会には、曾念祖・台北駐福岡經濟文化辦事處處長代理の黃水益氏、福岡県議會議員の松尾嘉三氏、前筑後市議會議長の永田昌巳氏らの来賓をはじめ、慰霊訪問団の役員、旅の参加者、九栄会会員、台湾からの留学生ら約70名が参集、慰霊訪問の旅の成功を祈念するとともに日台の友好親善の絆を深めた。

第14次訪問団の参加者は41人(福岡県29人、長崎県、東京都、埼玉県、京都府各2人、大阪府、茨城県、愛知県各1人、台湾1人)で賛同者の輪が全国的な広がりを見せている。

今回は、11月22日(木)から26日(月)まで台湾各地を訪問し、初めて台南武徳殿と台南市政府を表敬訪問する。訪問先は、旧日本海軍軍人を祀った保安堂(高雄)、明治時代の海軍軍人・田中綱常少将らを祀った東龍宮(屏東)、台南武徳殿(台南)、飛虎將軍廟(同)、鹽水國民小學(鹽水)、宝覺寺(台中)、富安宮(東石)、台湾の靖國神社(新竹)、六士先生の墓(台北)などで、台中の宝覺寺で

は台湾籍の日本軍人軍属慰霊祭に参列する。11月23日には台南市政府、26日には中華民国外交部表敬訪問も予定されている。またこの間、黃明山・葉美麗台湾支部長夫妻ら現地の人たちによる歓迎夕食会をはじめ、台湾台日海交會や台湾中日海交協會、台日文化經濟協會主催の歓迎夕食会や昼食会、懇親会も催される。

午後5時すぎから始まった結団式では、日台両国の国旗敬礼、国歌斉唱に続き、先の大戦で亡くなった台湾人元日本兵軍人軍属ならびに慰霊訪問事業に尽力し、志半ばに亡くなられた方に対し黙祷を捧げた後、訪問団の村山淳氏が開会の辞を述べた。次いで訪問団事務局の原田和典氏が経過報告を行い、今回の慰霊訪問の旅の日程などを簡潔に説明した。

続いて訪問団を代表して小菅団長が挨拶に立ち、今年14回目を迎える訪問の旅を始めた経緯を語った後、訪問団が取り持った縁談を紹介した。

台湾から福岡大学大学院に留学、卒業後に九州不動産専門学院に就

職、訪問団の事務などを担当した黃楷菜さんが、訪問団参詣先の東龍宮の李光立さんと、このほど結婚した。明朗活発で、日本語が堪能な黃さんは、「戦後の中華民國・台湾に生まれ、戦後の日本に留学し、戦前の領台時代を発見し、当時の台湾人の心を共有するまでになった」(小菅団長)。

小菅夫妻は台湾の高雄で行われた婚約披露宴に出席、結婚を証明する「証婚人」を努めた。黃さんは結婚後、台湾で台湾支部事務局長を努め、日本と台湾の架け橋となっている。

小菅団長は、「訪問団を続けてきたことで黃楷菜をはじめ多くの人達との出会いがあり、継続することで歴史に一步近づきました。今日はわが国・日本のために戦って亡くなられた方を偲び、有意義な時間を過ごして頂きたいと思います。訪問団の方々が健康で無事に慰霊の旅を終えられ、今日参集された見送りの皆さんと帰朝報告会で再会できることを念じています」と述べ、日台の友好、「家族交流・兄弟交流」を祈念した。



永田昌巳氏による卓話



和やかに記念撮影

次いで来賓の黄水益氏が挨拶に立ち、曾處長のメッセージを代読、小菅団長をはじめ訪問団員が、永年に亘り、戦没者の慰霊や中華民国台湾との家族交流を継続していることに敬意を表し、日本において台湾への理解を深め、日本と台湾の友好親善促進に尽力していることに敬意を述べた。松尾氏は、九州不動産専門学院の卒業生で、小菅代表の意志を継承し、教育問題に力を注ぎ、「確固たる国家観を持ち、国を思い、そして台湾との友好を心から考えている皆さんのような日本人を作っていくのが私の役目だと思っています」と力強く述べ、結団式・壮行会の開催を祝した。

来賓挨拶後、永田氏が「私と台湾」と題して卓話、これまでの訪台経験を交え、旅行の意義と見どころを、第14次の訪問に向け語った。

日本が台湾統治に情熱的に取り組んだ理由として、永田氏は、日本には神話の昔から万世一系の天皇による国づくりの文化のDNAが脈々と受け継がれており、明治天皇が台湾においてその国造りを行ったのではないかと語った。

また、英霊顕彰の意義について小菅団長の言葉を引用し、日本兵として日本のために戦って戦死され、親兄弟も妻もない若い人たちは、だれも御霊を祀るひとがいない。日本人の誰かがしなければならぬ、ここに訪問団の大きな意義があると強調した。最後に永田氏は、「日本人は自分たちの過去の歴史を、台湾割譲の歴史を知らなすぎる。日本人は過去に対する自信を取り戻してほしい」という許文龍氏(奇美実業の創設者)の言葉を引用し、日本人は慰霊の責任を果たし、日本の歴史をしっかりと身につけて多くの人に知らせることが訪問団の使命ではないかと語った。

永田氏の卓話後、幹事旅行社挨

拶に続き、訪問団の原田泰宏氏が力強く「結団の誓い」を読み上げた。古賀誠氏の閉式の辞のあと、全員揃っての記念撮影となり、結団式は終了した。

休憩を挟んで第2部の壮行会に移った。開会のことばを述べた訪問団東京支部長の藤田達男氏は、室町時代の官領・細川頼之の「人生五十功無きを愧ず」という言葉を引用し、「私も50歳になり、人生の4分の1は訪問団に関わっています。台湾への慰霊訪問も倦まずたゆまず実行して行けば必ず脚光を浴びる時がきます。私も頑張っていきたいと思っています」と決意を述べた。次いで、九栄会副会長の上野和彦氏が乾杯の音頭を取り、祝宴に移った。

壮行会では、台湾からの留学生の紹介、川崎町議会議員でシンガーソングライターの櫻井英夫氏によるギターの弾き語り、軍歌や台湾の歌合唱など賑やかな余興もあり、和やかな雰囲気の中で、日台の友好促進と慰霊訪問の旅の成功を祈念、大橋昭仁氏の閉会の辞で締めとなった。

昨年11月に実施した「第14次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」の帰朝報告会・新年会は平成25年1月26日(土)、福岡市内の平和楼本店で開催され、73名が参集し訪問団員の無事帰国を祝うとともに、日・台の親善友好をさらに深めた。

午後5時過ぎからはじまった帰朝報告会では訪問団員の中島公明氏の開会の辞で開会した。続いて訪問団を代表して小菅団長が挨拶に立ち、簡単な帰朝報告を行った。小菅団長は、原台湾人元日本兵軍人軍属の慰霊訪問という国家的事業を、公的支援もなく14回も続けてこれたことに思いを馳せ、「感無量であり胸が熱くなります」と心情を吐露、今回の14次での多大な成果の中から

次の5点を披露した。①宝覺寺での慰霊祭が大成功した。わが国からの団体としては慰霊訪問団が唯一となったが、第13次からの儀仗が援軍として再び登場した。とくに東京からソプラノ歌手の森敬恵さんが参加、各地の慰霊祭で「海ゆかば」を独唱し、慰霊の雰囲気一段と高められた。②宝覺寺日本人墓地での慰霊式において、第13次を上回る100名以上の日本人観光客がご焼香に合流した。③辦事處の曾處長のお取り計らいもあり、第13次の台中市政府に続き台南市政府をを表敬訪問でき、賴清徳市長の歓待を受けた。④林森公園の明石鳥居の復元に尽力された台北の市議會議員、陳玉梅さんが私たちのために大雨の中、待っていて下さり、丁寧な説明を受けた。⑤外交部において、蘇副秘書長のお取り計らいにより、歌手の森敬恵さんによる「海ゆかば」に合わせ全員で原台湾人戦没者に黙祷を捧げることができた—の5点を挙げた。また小菅団長は、慰霊訪問事業が14回の長期に亘って続けることが出来た理由について①動機の崇高さ②無理をしなかった③特権階級をつくらなかった④台湾人との交流を大切に⑤記録は命としてドキュメントを綴ってきた、と5つの視点から展開し、最後に「公的支援のない公的事業は団員の皆様をはじめとする民間の熱きご支援なしには一日も立ちゆきません。今後ともご理解のほど、よろしくお願いします」と述べ、今秋の第15次慰霊訪問への参加と協力を呼びかけた。

第2部の新年会は、辦事處の呉沛晃氏、台湾からの留学生も参加して賑やかに開催された。会場には今次の台湾慰霊訪問の旅の記録DVDも流され、和気藹々とした雰囲気の中で、日台の友好の絆を深めるとともに、今秋の記念すべき第15次訪問に向け新たな第一歩を踏み出した。

日台の魂の交流 第10回台湾特別講演会

— ありがとう台湾 世界一の親日国に感謝 —

『日本と台湾の過去・現在・未来』

— 私たちが目指すべき日台の関係 —

台湾特別講演会は、平成15年6月から実施しており、今年で10回目となる。今回は2部構成で、第1部は昨年に続き文明史家の黄文雄氏が講師を務め、「日本と台湾の過去・現在・未来」と題して講演。第2部では、初の試みとして、「東日本大震災から見えた日台の生命の絆」と題して、小菅団長が進行役で、黄文雄先生、施光恒先生、柳原憲一先生によるパネルディスカッションが行われた。

講演に先立ち式典が行われ、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、「生命の絆」唱和、開会の辞のあと主催者を代表して慰霊訪問団の小菅団長が挨拶に立った。

小菅団長は「台湾特別講演会」を始めた理由、これまでの経緯を語った後、今回の講演会の目的を、①東日本大震災での巨額の復興支援に対するお礼②どうして台湾のひとは日本に親切にしてくれるのか、その淵源を講演会なりに解答を出す③慰霊訪問でお世話になった台湾の皆さんを代表して台湾支部長の黄明山夫妻に来福して頂き、謝意を伝える—の3点を述べ、慰霊訪問の旅への参加と協力を呼びかけ、日本と台湾の絆が益々太くなることを祈念した。

次いで来賓を代表して曾念祖・台北駐福岡経済文化辦事處處長代

理の黄水益氏と前衆議院議員の西川京子氏が挨拶に立った。黄氏は曾處長の祝辞を代読、「日本と中華民國台湾は歴史的にも地理的にも固い絆で結ばれており、これからもお互いに信頼し協力してゆくことが必要不可欠だと確信しています」と述べ、今後さらに日台の絆が深まることを祈念するとともに台湾への理解と支援を呼びかけた。

続いて西川氏が、台湾の東日本大震災の復興支援に対する謝意を述べ、今年3月11日の政府主催の追悼式で中華民國台湾代表を主賓席から外し一般席に着席させた非礼さに対し、民主党政権を厳しく非難したあと、「大震災は日本人の誠実さや思いやりの精神など美德を思い起こさせた。戦後65年、日本はどうだったのか、日本的な素晴らしいものが否定され続けてきた。改めてしっかり日本の良さを掘り起こすことが日本の政治の改革であり、日本再生の大きな力になると思う。日本はもっとしっかりしなければならない」と力強く語った。

その後、「日華(台)親善友好慰霊訪問団」台湾支部長の黄明山氏が「台湾の声」を読み上げ、九州不動産専門学院職員で訪問団の仕事に携わる娘の黄楷菜さんが通訳を努めた。黄氏は、慰霊訪問の趣旨に賛同するとともに慰霊訪問団に敬意を

表し、「台湾講演会」への謝辞を述べたあと、「毎年、皆さんとお会いするときはとても心温まり感謝の気持ちが湧いてきます。永い時間をかけて築かれた日台の真摯な友情を大切にし、子孫に末永く伝えて行きたいと思います」と述べた。

次いで、黄明山氏に小菅団長から感謝状と記念の盾が手渡された。訪問団副団長の木村秀人氏の万歳三唱、同副団長の中山茂氏の閉会の辞で式典を終了。講演会に移った。

第1部では、基調講演として文明史家の黄文雄氏が講師を務め、「日本と台湾の現在・過去・未来」と題して講演。第2部では、初の試みとして、「東日本大震災から見えた日台の生命の絆」をテーマに、訪問団の小菅団長がコーディネーターを務め、パネリストに黄文雄氏、九州大学大学院准教授の施光恒氏、西日本台湾学友会前会長の柳原憲一氏の3氏を招きパネルディスカッションが行われた。

講演会終了後、講師の黄文雄氏や台湾支部長の黄明山夫妻らを囲み、約70人が参集し懇親会が開かれた。黄明山夫妻が各テーブルを回って挨拶、日台の親善友好を深めるとともに、第14次の慰霊訪問団への参加の気運が大いに盛り上がった。

黄文雄氏の講演内容(概要)は次のとおり。

黄氏は、日本と台湾との関係を過去・現在・未来の3つの視点から講演。日本が台湾の教育や金融制度、物流などインフラ整備に尽力したこと、武士道に見られる日本精神は、台湾に大きな影響を与え、今でも生き続けていることなどを述べ、私たちが目指すべき日台の関係について、心・魂・霊のふれあいの大切さを考え、日本の霊性の原点から日台交流の文化史的意義をみつめることが大切だと述べた。

先ず、「過去」の問題としては、

①日台同祖論はどこまで解明されているか

台湾の原住民のDNAは縄文人に近く、台湾でも縄文土器と同じような土器の破片が出土している。超古代では台湾と琉球・九州は同じ文化圏だった。しかし、まだ解明されていないものがたくさんある。考古学からでなく、言語学、遺伝子学も含めて研究されなければならない。

②台湾植民地論争

戦後の歴史観の中で間違いが多いのは、台湾と朝鮮と満州を日本の三大植民地として同一に論じたことで、これは完全な間違いだ。満州は独自の国家であり、朝鮮は日本が併合した。台湾については、日清戦争後、清国が日本に永久に割譲した。台湾を植民地とすべきかどうかは日本の帝国会議でも論争があった。原敬首相も台湾総督府民生長官の後藤新平も明確に植民地とは言わなかった。植民地と決め付ける証拠はない。内地の延長として捉えていた。

③ハードとソフトのインフラから日本の台湾経営を再考

日本が台湾経営に乗り出し、教育制度や金融制度、物流を整備した。国民教育の中に体育と音楽を導入し、就学率も70%を超え、読み書きも普及した。

④日本が台湾に残した精神的遺産

日本は宗教・道徳教育がなくても伝統文化を見れば道徳を超える善悪を超越したものがある。李登輝元台湾総統が「武士道解題」を著したように、武士道にみられる日本精神は、台湾に大きな影響を与え、今でも生き続けている。

「現在」については、次の3点について考察した。

①日・台・中の文化要素と文明の仕組み

漢字を使用するのは中国、台湾、日本皆同じだが、文明の仕組みは皆異なる。日本の文明は統合できるものがあるが、中国は統合するものがない。

②台湾の国家・民族・社会・文化のアイデンティティの分裂

台湾と日本の文化は似ているところもあるが似ていないところもある。台湾は外来の支配が続いてきており、アイデンティティに多様性が見られる。

③台湾の問題・難題・課題

台湾の問題・難題・課題は虫の目、鳥の目から見つめ分析することが肝要だ。

「未来」についても3点について考察。

①日・米・中・台関係の現在と未来

台湾を考える場合、主権、資本、メディアを見れば比較的分かりやすい。国際的な力関係がこれからの台湾を見る場合大きな要因になる。アメリカの政策、それに台湾自身がどう決めるのか—3つのベクトルで決まる。

②台湾の比較的優位

台湾と中国とは民度も社会の成熟度も違うし、普遍的価値の受容度も違う。この3つの違いから台湾と中国の将来がどういう問題を抱えているか分かる。

③心・魂・霊のふれあいの真価を考える

日本と台湾の考え方が違うのは生と死の考え方、死生観だ。日本人は心・魂・霊のふれあいを大切にしている。日本の霊性の原点から日台交流を通して魂の交流を行っている小菅団長をはじめとする慰霊団の皆さんは日本の原点を見つめていることになる。





続いて行われたパネルディスカッションでは、焦点を絞るため共通の問いかけとして、①日台の親近感の淵源、親近感がどこからくるのか②今後の日台関係についてわが国がどのような政策を取ったらよいのかの2点について各氏に意見を伺った。

黄文雄氏は、海洋的性格と大陸的性格は異なる。台湾は武士道精神が滲透している。目にみえるところより心の交流を大事にする。交流の中に精神性が貫かれていると述べ、日本的霊性に基づいた魂の交流の大切さを強調した。

施光恒氏は、権力社会・中国と

文化社会・日本の違いを挙げ、台湾は日本に近い文化社会で親近感がある。日本は自国の良いところをもっと自覚して欲しい。日本は比較的に安定した社会であり、長期的な信頼関係、視点を大事にしてゆくこと。日本は中国のボーダレス文化、権力社会とは対極的な文化社会といえる。世界の中で日本は、文化を基盤にして安定した国づくりのお手伝いをしていく。それが文化社会の代表国家としての日本の努めだ。そして台湾がアジアのパートナーとなっていくと思うと述べた。

また柳原憲一氏は、日台の親近感の淵源は、共通の戦争体験と価

値観を共有していることにありと述べ、日台関係をどうするのかではなく、邪魔者(中共)にどう対処するかが問題だ。邪魔者は取り除かねばならないと強調した。

小宮山氏は、「私たちは13年間台湾に行きましたが、台湾の人達は戦前の日本人に対して感謝と尊崇の心を持っています。一方、反戦・非戦を増幅させているのが今の日本です。日本を世界に冠たる道義国家にしていくことが、台湾の人たちが日本に期待していることではないかと思います。」と締め括った。



台湾支部長 黄明山・葉美麗ご夫妻を囲んで記念撮影

第11回 台湾特別講演会

日台の魂の交流 15周年記念事業

大東亜戦争 舊日本軍 台籍軍人・軍属
慰霊祭 式場 台湾 台日海交會



台湾には日本人と共に大東亜戦争を戦い散華された原台湾人元日本兵軍人軍属3万3千余柱が今も眠っていることをあなたはご存じですか。

第一部 基調講演

平成24年11月25日 原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭 於台中市寶覺寺

思想的背景から見た日台の魂の交流

—日本人の生と死を見つめながら魂の深層を探る—

第二部

文明史家 黄 文雄 先生

今後の日本と台湾の真の交流について
—私たちがめざすべき日台の関係—

パネルディスカッション

コーディネーター 小菅 亥三郎



【略歴】昭和46年(1971)福岡県生まれ。平成元年(1989)福岡県立修猷館高校卒業。平成5年(1993)慶應義塾大学法学部卒業。同13年(2001)慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。九州大学大学院比較社会文化研究院助教を経て現職。

施 光恒 先生

(九州大学大学院准教授)



【略歴】昭和32年(1957)台湾彰化県和美鎮生まれ。昭和59年(1984)来日。平成5年(1993)九州大学医学部卒業。九州大学医学部付属病院医員。現在、福岡県大野城市医療法人柳原皮膚科クリニック理事長。台湾平埔族研究家。

柳原 憲一 先生

(西日本台湾学友会前会長)



【略歴】昭和13年(1938)台湾高雄県岡山鎮生まれ。昭和36年(1961)来日。昭和44年(1969)早稲田大学商学部卒業。昭和46年(1971)明治大学大学院政治経済学研究科西洋経済史学修士。現在、拓殖大学日本文化研究所客員教授。アメリカの華字新聞に掲載した論文が「中国の没落」(新台政論社)として昭和61年(1986)に台湾で地下出版され大反響を呼び、反体制運動家の必読書に。中国を批判し日本を激励する言論を展開している。

どなたでもご参加できます!

■ 日時/平成25年6月2日(日)

■ 開演/13:00 ■ 開場:12:30

■ 会場/福岡ガーデンパレス 1階ホール

福岡市中央区天神4-8-15 TEL(092)713-1112

講演会 / 13:00~17:00

会費:1,000円

(学生/500円)

定員:200名

交流会 / 17:15~19:00

(全席円卓席)

会費:5,000円

定員:100名

(講演会・交流会参加は5,000円)

※講演会終了後に講師の先生や台湾の皆様を囲んで和やかに交流会を催します。



【台湾人戦没者に捧げる慰霊催事】

- ① 日本舞踊錦流家元 錦恵岳泉による奉納舞
- ② 寺田蝶美、岩城朋子による筑前琵琶弾き語り
- ③ 岡田敏江による文部省唱歌独唱

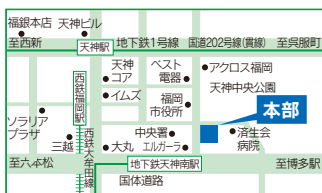
主催: 日華(台)親善友好慰霊訪問団 (結成平成11年)

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階 TEL092-721-0101

■ 協 賛: 九州不動産専門学院 九栄会(九州不動産専門学院グループ同窓会) JTB九州

■ 後 援: 産経新聞九州総局/福岡教育連盟/福岡日報親善協会/福岡県神社庁/福岡県モラロジー協議会/福岡県郷友連盟/福岡県海友会/福岡県中華總會/福岡県国際交流センター/日本会議福岡/教育研究会未来/日本協議会福岡県支部/西日本台湾学友会/台湾在日福岡留学生会/スタジオ日本日曜討論番組を支える会(申請中含む)

現地協力: 台中・寶覺寺/高雄・保安堂/屏東・東龍宮/台南・飛虎將軍廟/嘉義・富安宮/新竹・勸化堂/新竹・演化宮/台北・高砂義勇隊戦没英霊記念碑(烏來酋長文化村)/台南・烏山頭水庫(八田興一記念館・八田興一記念公園) <慰霊祭主催団体> 台中・台湾台日海交會/台中・台湾中日海交協會



日華(台)親善友好慰霊訪問団

本部 福岡市中央区天神1-3-38
TEL(092)721-0101
FAX(092)725-3190

台湾支部(支部長:黄明山)
 高雄市鳳山區南正一路
 2巷11弄5號
TEL(07)751-4906

台湾支部事務局(事務局長:黄楷榮)
 基隆市信義區深溪路
 31巷48號1樓
TEL(08)878-6520

URL <http://taiwan.l-mate.net>

Eメール taiwan@l-mate.net